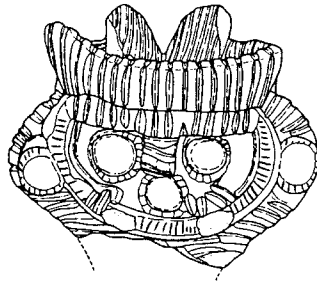


市原市文化財センター年報

平成5年度



財団法人 市原市文化財センター

目 次

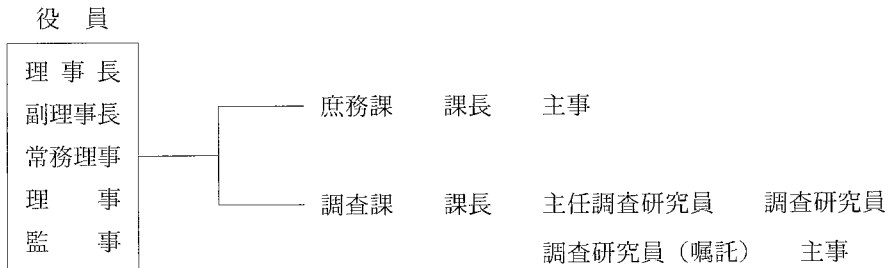
序

I 機構	1
II 平成5年度事業概要	2
III 平成5年度調査概要	6
1. 村上遺跡群	8
2. 椎津坂ノ上遺跡	9
3. 中伊沢遺跡	10
4. 分目要害遺跡	11
5. 山田橋大塚台遺跡	30
6. 釜神遺跡	32
7. 神崎東官台遺跡	34
8. 高倉溝谷遺跡	34
9. 月崎寺の台遺跡	35
10. 菊間深道遺跡	35
11. 古甲遺跡（地中レーダー探査）	36
12. 新生荻原野遺跡A区	38
13. 土宇下原遺跡B地点	40
14. 姉崎京原遺跡C地点	43
IV 平成5年度受贈図書一覧	44

I 機 構

財団法人市原市文化財センターの機構は、役員及び職員から構成されている。役員は、寄附行為の定めにより、理事長、副理事長、理事、監事をもって構成され、平成5年度の職員は、事務職員4名（内市都市公社出向職員1名）、技術職員10名（内市事務従事職員9名）であり、その組織及び氏名は以下のとおりである。

1. 組 織



2. 役 員

職 名	役 職 名	氏 名
理 事 長	市教育委員会 教育長	植草久善
副理事長	市教育委員会社会教育部長	田中信雄
常務理事	専 任	鈴木太郎
理 事	國學院大学教授	加藤晋平
理 事	和洋女子大学教授	寺村光晴
理 事	郷 土 史 家	木村千春

職 名	役 職 名	氏 名
理 事	市 企 画 部 長	佐野年男
理 事	市 総 務 部 長	落合 泰
理 事	市 財 務 部 長	加瀬睦郎
理 事	市都市計画部長	田中俊夫
監 事	市 出 納 室 長	中村知之
監 事	市教育委員会総務課長	深澤和良

3. 職 員

所 属	職 名	氏 名
庶務課	課 長	田 丸 萬 富
	主 事	大 鐘 光 江
	主 事	阿 部 茂 之
調査課	課 長	米 田 耕 之 助
	主任調査研究員	田 中 清 美
	調 査 研 究 員	大 村 直
	調 査 研 究 員	高 橋 康 男

所 属	職 名	氏 名
調査課	調 査 研 究 員	木 對 和 紀
	調 査 研 究 員	忍 澤 成 視
	調 査 研 究 員	田 中 茂 良
	調 査 研 究 員	小 川 浩 一
	調 査 研 究 員	櫻 井 敦 史
	調 査 研 究 員 (嘱託)	半 田 堅 三
	主 事	高 浦 貞 子

Ⅱ 平成5年度事業概要

1. 理事会の開催

- 第1回理事会 平成5年5月31日
 議案第1号 平成4事業年度事業報告について
 議案第2号 平成4事業年度収入支出決算について
- 第2回理事会 平成5年11月22日
 議案第1号 平成5事業年度事業計画の変更について
 議案第2号 平成5事業年度補正予算(第1号)について
- 第3回理事会 平成6年2月10日
 議案第1号 寄附行為の一部改正について
- 第4回理事会 平成6年3月24日
 議案第1号 理事長の決定について
 議案第2号 寄附行為の一部改正について
 議案第3号 役員報酬、手当に関する要綱の一部改正について
 議案第4号 財務規定の一部改正について
 議案第5号 常勤役員報酬額の決定について
 議案第6号 平成5事業年度事業計画の変更について
 議案第7号 平成5事業年度補正予算(第2号)について
 議案第8号 平成6事業年度事業計画について
 議案第9号 平成6事業年度収入支出予算について

2. 会計監査

平成5事業年度の会計監査は、平成6年5月18日財団法人市原市文化財センター事務室において、斎藤初男、田邊義夫監事により実施された。

3. 平成5年度受託事業

番号	継続 又は 新規	事業名	委託者名	遺跡名	種別	(㎡) 面積	事業内容	契約年月日	完了年月日	(円) 受託金額
1	新規	市道101号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査(本調査)	市原市 (道路建設第1課)	村上遺跡群	散布地	122	本調査	平成5年5月6日	平成6年3月15日	4,140,600
2	新規	市道153号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査(確認調査)	市原市 (道路建設第1課)	椎津坂ノ上遺跡	散布地	300	確認調査	平成5年12月10日	平成6年3月31日	5,030,520
3	新規	市道148号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査(確認調査)	市原市 (道路建設第1課)	中伊沢遺跡	散布地	850	確認調査	平成5年10月27日	平成6年3月15日	11,999,500
4	新規	市道112号線建設工事に伴う埋蔵文化財調査(本調査)	市原市 (道路建設第2課)	分目要害遺跡	城跡	2,900	本調査	平成5年6月10日	平成6年3月31日	29,786,570

番号	継続 又は 新規	事業名	委託者名	遺跡名	種別	(㎡) 面積	事業内容	契約年月日	完了年月日	(円) 受託金額
5	新規	都市計画道路草刈西 広線建設工事に伴う 埋蔵文化財調査	市原市 (道路建設第1課)	山田橋 大塚台遺跡	集落跡 古墳 古代道路跡	8,000	本調査	平成5年4月1日	平成6年3月31日	58,737,810
6	継続	都市農業センター建 設に伴う埋蔵文化財 調査(本調査)	市原市 (農業センター)	釜神遺跡	集落跡	11,000	本調査	平成4年10月1日	平成6年3月31日	55,940,054
7	新規	市内遺跡発掘調査	市原市 (ふるさと文化課)	市内遺跡	散布地	700	確認調査 一部本調査 整理	平成5年6月15日	平成6年3月30日	8,058,720
8	新規	牛久配水池建設に伴 う埋蔵文化財調査	市原市 (水道建設課)	待戸遺跡	集落跡 供養塚	150	整理・報 告書刊行	平成5年4月8日	平成6年3月31日	1,995,110
9	新規	国分寺台遺跡群発掘 調査に係わる基礎整 理	市原市 (ふるさと文化課)	稲荷台遺跡	集落跡他		基礎整理	平成5年4月28日	平成6年3月31日	10,000,000
10	新規	上総国府推定地確認 調査	市原市 (ふるさと文化課)	古甲遺跡他	国府 推定地		確認調査 整理・報 告書刊行	平成5年10月29日	平成6年3月31日	4,999,620
11	新規	(仮称)後樂園市原レク リエーションワールド建 設に伴う埋蔵文化財調査	㈱東京ドーム	萩原野遺跡 (A・B・C区)	散布地	4,518	本調査	平成5年11月12日	平成6年3月31日 (8年度まで継続)	46,523,312
12	新規	東林寺墓地造成に伴 う埋蔵文化財調査 (確認調査)	曹洞宗 東林寺	土手下原 遺跡 (B地点)	古墳 集落跡	640	確認調査	平成5年4月20日	平成6年3月31日	6,380,334
13	継続	トラクターミナル 建設に伴う埋蔵文化 財調査	福山通運(株) 武蔵屋商事(株)	能満 土小貝塚遺跡	集落跡 貝塚	4,703	整理	平成4年11月11日	平成6年3月31日 (6年度まで継続)	4,494,929
14	継続	宅地造成(姉崎東原 地区)に伴う埋蔵文 化財調査	㈱大和建設	姉崎東原 遺跡 (B地点)	集落跡	2,100	整理・報 告書刊行	平成4年4月1日	平成5年9月30日	1,668,600
15	新規	宅地造成(姉崎東原 地区)に伴う埋蔵文 化財調査(C地点)	㈱大和建設	姉崎東原 遺跡 (C地点)	城郭跡	500	確認調査 一部本調査	平成6年1月12日	平成6年3月31日 (6年度まで継続)	4,810,829
合 計										254,566,508

4. 研究事業

① 内部研修会

調査補助員研修会 平成5年10月27日 於 松戸市立博物館
職員研修会 平成6年1月25日 於 市内北部有形文化財視察
平成6年2月23日 於 市内南部有形文化財視察

② 外部主催研修会

千葉県文化財法人連絡協議会共同研修会
平成5年10月8日 於 千葉県立中央博物館

千葉県文化財法人連絡協議会海外研修会

平成5年10月14日～18日 於 韓国

全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会

平成5年10月21日～22日 於 京都市

千葉県文化財管理指導講習会

平成5年11月5日 於 千葉県立美術館

千葉県文化財法人連絡協議会事務部会研修会

平成6年1月28日 於 ちば共済会館

5. 普及活動

① 遺跡見学会 平成5年11月20日 於 山田橋大塚台遺跡

② 千葉県文化財法人連絡協議会遺跡研究発表会

平成6年1月30日 於 銚子市青少年会館

③ 財団法人市原市文化財センター遺跡発表会

平成6年3月6日 於 市原市五井会館

平成5年度調査遺跡の成果報告

能満上小貝塚遺跡

浅井小向釜神遺跡

山田橋大塚台遺跡

分目要害遺跡

特別講演

「動物考古学から見た市原」 早稲田大学考古学研究室 樋泉 岳二

「中世と考古学」 鶴見大学教授 大三輪 龍彦

6. 印刷物の刊行

「市原市文化財センター年報昭和63年度」

「市原市姉崎東原遺跡B地点」財団法人市原市文化財センター調査報告書第51集

「市原市待戸遺跡・待戸供養塚」財団法人市原市文化財センター調査報告書第52集

「市原市上総国府推定地確認調査報告書(1)」

財団法人市原市文化財センター調査報告書第53集

7. 平成5年度決算報告

平成5年4月1日から
平成6年3月31日まで

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額			決 算 額	差 異	備 考
	当初予算額	補正予算額	合 計			
基本財産運用収入	400,000	△ 160,000	240,000	239,505	495	
事 業 収 入	363,882,000	△ 106,315,000	257,567,000	254,972,461	2,594,539	
雑 収 入	2,008,000	2,429,000	4,437,000	4,429,568	7,432	
当期収入合計	366,290,000	△ 104,046,000	262,244,000	259,641,534	2,602,466	
前期繰越収支差額	47,223,000	△ 5,650,000	41,573,000	41,573,454	△ 454	
収 入 合 計	413,513,000	△ 109,696,000	303,817,000	301,214,988	2,602,012	

支出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額			決 算 額	差 異	備 考
	当初予算額	補正予算額	合 計			
受 託 事 業 費	324,186,000	△ 90,442,000	233,744,000	235,656,390	△ 1,912,390	
研 究 事 業 費	3,100,000	152,000	3,252,000	2,780,222	471,778	
普 及 事 業 費	3,600,000	△ 891,000	2,709,000	2,646,726	62,274	
一 般 管 理 費	16,360,000	△ 4,750,000	11,610,000	11,811,948	△ 201,948	
消 費 税 支 出	4,239,000	△ 1,219,000	3,020,000	2,970,000	50,000	
固定資産取得支出	1,000,000	—	1,000,000	1,056,007	△ 56,007	
財政調整基金積立預金支出	5,000,000	△ 4,238,000	762,000	762,062	△ 62	
退職給与引当預金支出	250,000	—	250,000	250,000	—	
予 備 費	3,000,000	△ 3,000,000	0	—	—	
当期支出合計	360,735,000	△ 104,388,000	256,347,000	257,933,355	△ 1,586,355	
当期収支差額	5,555,000	342,000	5,897,000	△ 1,708,179	5,988,391	
次期繰越収支差額	52,778,000	△ 5,308,000	47,470,000	43,281,633	4,188,367	

Ⅲ 平成5年度調査概要

平成5年度の発掘調査は、確認調査4事業、確認調査～本調査2事業、本調査5事業、計14遺跡を対象とした。調査遺跡は例年になく少数ではあったが、浅井小向の釜神遺跡、山田橋大塚台遺跡、荻原野遺跡など、比較的広範囲におよぶ本調査も含まれている。

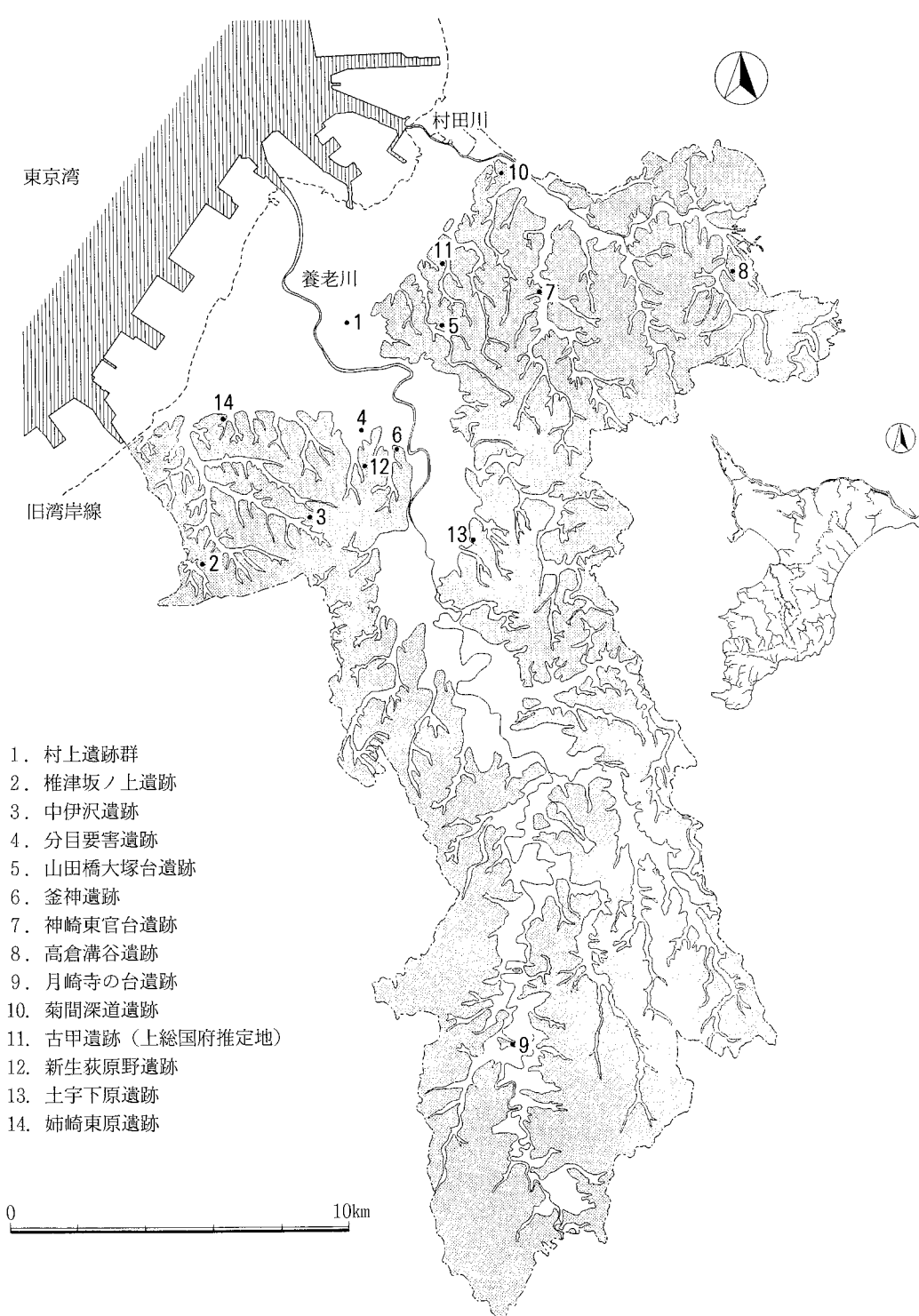
調査の対象となった遺跡は、旧石器時代から中近世にわたるが、本年度は、釜神遺跡、山田橋大塚台遺跡、神崎東官台遺跡、菊間深道遺跡など、とくに弥生時代後期の集落跡の検出が顕著であった。過去の調査事例をみても、市原市域では、東京湾岸から村田川・養老川中下流域縁辺を中心として、当該期から古墳時代前期の資料は他の時期を圧倒している。しかし、国分寺台遺跡群など、その多くは未整理であり、この時期の内容は、調査数に比較してかならずしも明確ではなかった。

上記のうち、釜神遺跡は、平成4年度からの継続調査であり、総数で弥生時代中期から平安時代にいたる竪穴住居跡234軒、平安時代の掘立柱建物跡3棟、古墳時代前期の方形周溝墓5基、古墳時代中期から後期の円墳9基などを数える。竪穴住居跡の大半は弥生時代後期であり、その分布は台地斜面部におよぶ。

大塚台遺跡では、やはり弥生時代後期を主体とし、竪穴住居跡70軒以上が検出されている。昭和60・62年度に発掘調査がおこなわれた山田橋表通遺跡、東千草山遺跡、平成7年度より本調査を実施している大山台遺跡は、地形的に大塚台遺跡と一連の關係にあり、それぞれ弥生時代後期の竪穴住居跡を多数検出している。今後、弥生時代後期の集落の形成過程を解明する上で好材料になると思われる。なお今回、周溝の北側約1/3を検出した山田橋大塚台古墳は、時期的に弥生時代終末期ないしは古墳時代早期に遡る可能性が想定されることとなった。墳形は不確実ではあるが、墳丘規模は神門古墳群にほぼ匹敵する可能性がある。また、大塚台遺跡では、稲荷台遺跡、表通遺跡に連続する古代道路跡の一端が検出されている。

菊間古墳群東関山古墳隣接地に位置する菊間深道遺跡では、弥生時代の環濠と想定されるV字溝が検出された。隣接する菊間遺跡でもV字溝が検出されており、相互の關係が今後問題となろう。

弥生時代以外では、中世城郭である分目要害遺跡の調査が注目される。分目要害遺跡は、付近の、要害・寝小屋・東門・門前などといった城にかかわる小字名や、一部に残存する土塁などから、中世城郭としての可能性は以前より指摘されていたが、今回発掘調査によって、柵列をともなう堀障子や地下式塙などが検出されることとなった。調査区は、道路建設にともなう限定された範囲であったため、全体の構造、遺構の時期的な変遷など不確定ではあるが、過去市内では調査事例の少ない中世遺跡の一端が明らかになった。



- 1. 村上遺跡群
- 2. 椎津坂ノ上遺跡
- 3. 中伊沢遺跡
- 4. 分目要害遺跡
- 5. 山田橋大塚台遺跡
- 6. 釜神遺跡
- 7. 神崎東官台遺跡
- 8. 高倉溝谷遺跡
- 9. 月崎寺の台遺跡
- 10. 菊間深道遺跡
- 11. 古甲遺跡（上総国府推定地）
- 12. 新生荻原野遺跡
- 13. 土字下原遺跡
- 14. 姉崎東原遺跡

平成 5 年度調査遺跡位置図

むらかみ 1. 村上遺跡群

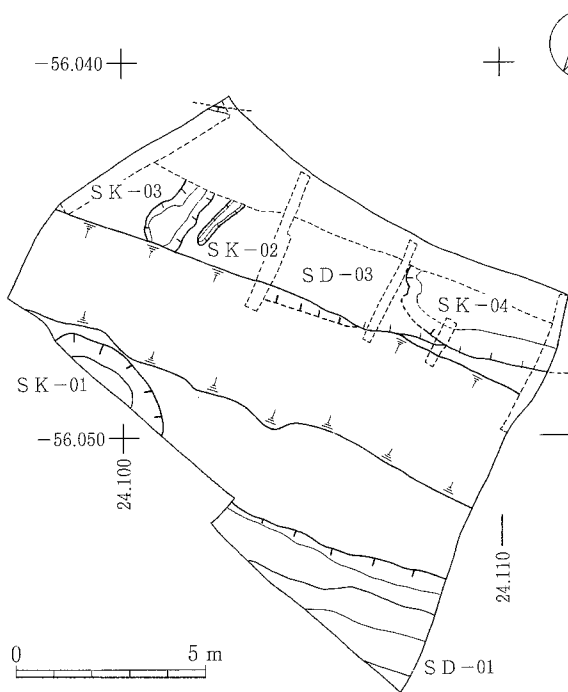
事業名 市道101号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市村上1,139地先 他

調査期間 平成5年5月6日～平成5年6月4日

調査面積 122㎡（本調査）

調査概要 今回の調査は、市道改良工事部分の小範囲を実施した。周辺は、村上遺跡群として、上総国府推定地（古代）、村上城跡（中世～近世）などが存在する。調査地区の西側隣接地は、千葉県文化財センターが東関道関係の調査を実施し、奈良～平安の掘立柱建物跡や溝、村上城跡の堀などを検出している。調査の結果、中央部が旧道によって削平されており、その周辺の北側と南側に近世とみられる遺構が切り合いながら残存していた。検出した遺構は、近世の土坑4基、溝2条である。今回調査した中で最も古い遺構は、SD-03溝で、南側の落ち



調査全体図

込み部分と底部が残存し、また、北西側のサブトレンチで北側の落ち込み下部付近とみられる部分を検出しているが確実ではない。覆土上部は、他の土坑や溝などにより切られている。規模は幅が不明であるが、深さは最大で約90cmを測る。SK-02、03は、部分的な調査であるが近世の土坑と考えられ、底部に宝永の火山灰が検出されている。SK-01は、大きな円形とみられ、井戸の可能性も考えられる。他の遺構については、部分的な調査であり、それらの性格等不明な点が多いが、皆近世以降の所産と考えられる。これらは、村上城の新しい時期の遺構として扱えられるのであろうか。（田中清美）

2. 椎津坂ノ上遺跡

事業名 市道153号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市椎津2,967地先 他

調査期間 平成5年12月16日～平成6年1月31日

調査面積 3,000㎡のうち300㎡（確認調査）

調査概要 調査の対象となった地点は、袖ヶ浦市と市原市との市境に近い標高62m前後の台地上にあたっていて、調査区の北側では「天羽田」と「椎津」の大字境に接している。調査地点の小字名は「坂ノ上」であり、今回改良工事の行われる市道153号線を、地元では「鎌倉街道」と呼称してきている。また、近隣にも「鎌倉街道」・「御領」などの地名が見られる。

調査は、区域内に設定した大小29ヶ所のトレンチによって行い、縄文時代早期の炉穴1基、縄文時代の土坑1基、竪穴住居跡1軒、近世の溝3条、道路遺構1条、土塁1基を確認した。

尚、確認調査の結果を受けて、平成7年度に本調査を実施している。（田所 真）

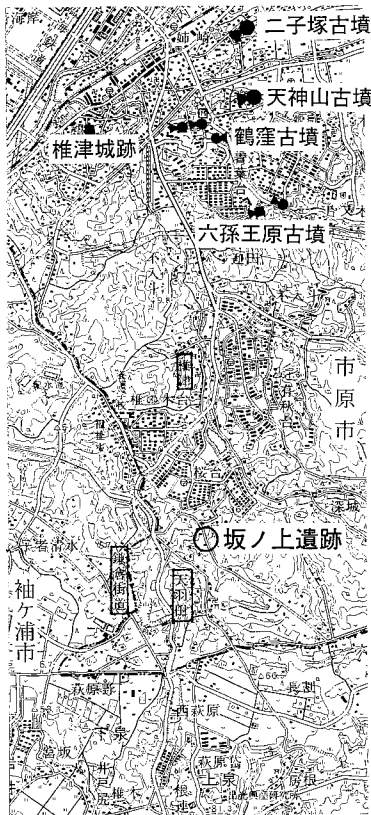


図1 椎津坂ノ上遺跡の位置

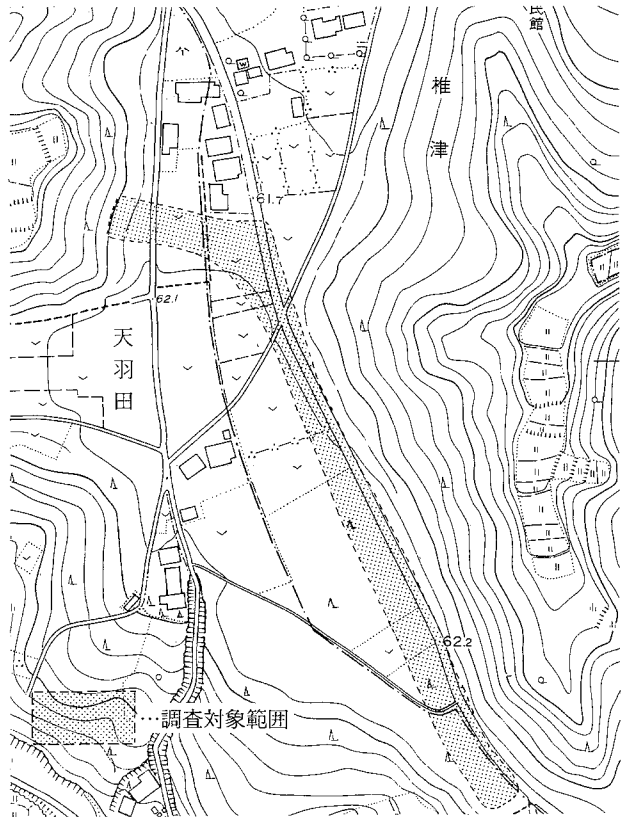


図2 椎津坂ノ上遺跡の立地と調査対象範囲

3. 中伊沢遺跡

事業名 市道148号線改良工事に伴う埋蔵文化財調査

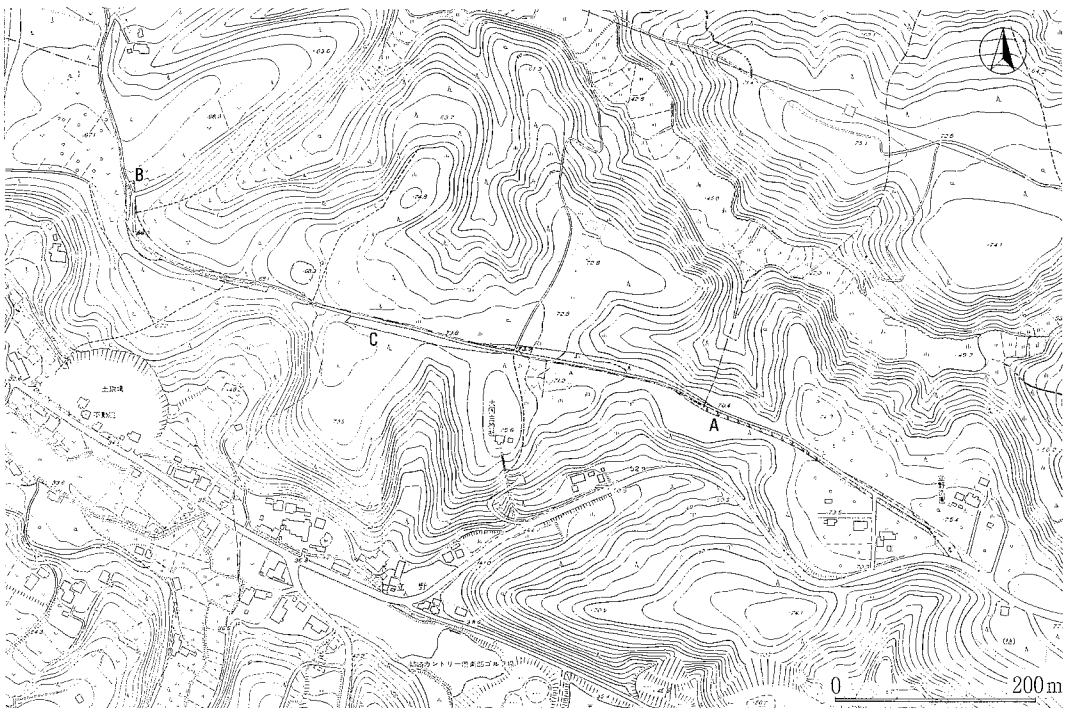
所在地 市原市立野286番地 他

調査期間 平成5年11月1日～平成6年2月28日

調査面積 8,500㎡のうち850㎡(上層)、98㎡(下層)(確認調査)

調査概要 今回の調査は、市道148号線の拡幅工事にとまなうものであり、調査対象は全長で約1kmにおよぶ。対象地周辺の地形は、樹枝状に開析された台地と、これをつなぐ痩せ尾根が連続し、本来は一遺跡としてとらえ得るものではない。なお中央断絶部分は、東関東自動車道館山線建設にとまない、平成2年度に財団法人千葉県文化財センターによって確認調査が実施されている。

調査の結果、A地点(仮称、以下同じ)より縄文時代早期の遺物包含層と炉穴、B地点より平安時代と推定される竪穴住居跡が検出され、また、C地点下層(V層)より小剥片若干が出土した。これらについては、平成8年度に本調査予定である。なお、ほぼ現道にそって道路跡が検出されたが、近現代以前に遡る積極的な確証もなく、確認調査区の範囲で調査、図化をおこない終了した。(大村 直)



中伊沢遺跡調査対象範囲と周辺の地形 (1/7,500)

4. 分目要害遺跡

事業名 市道112号線建設工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市分目字要害302-2 他

調査期間 平成5年6月16日～平成5年12月6日

調査面積 2,800㎡（本調査）

調査概要 遺跡は養老川中流域南岸に広がる沖積平野と、これを望む台地の接点に位置した中世城郭である。上総国府に向けた鎌倉街道推定路が付近を通り、養老川水運を含め陸上・水上交通要所の結節点にある。近隣の微高地・台地上にも城館跡が密集し、城館群の一環として捉えられる⁽¹⁾。道路建設工事に先行する調査のため、調査区域が細長い限定された範囲となり、不明な点も多いが、城郭遺構や墓域などが確認できた。

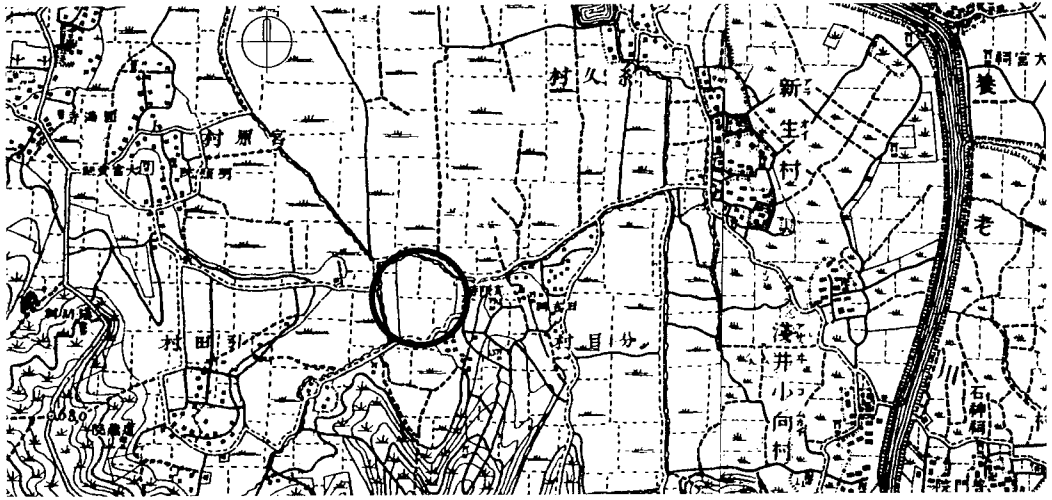
1、遺構

（城郭遺構）

堀4条、台地整形痕などが検出された。調査範囲北端部の2号堀（第5・6図）は、内側に柵列と土塁を伴う所謂障子堀であるが、湧き水による地崩れ防止のため、堀底まで完掘しえなかった。また、調査区中央を横断する箱堀（第5・7・8図）は北東にクランクして分断され（3号・20号）、虎口の一つが確認できた。20号堀はある段階で郭Ⅲ側土塁をつき崩し、埋め戻されたようで、近世（宝永期）には遺存していない（第8図）。郭Ⅴ南面、字門前付近の16号堀は薬研堀で、他の堀より形態的に古く、17B号地下式壙を切っている。16号堀出土遺物は15世紀中葉から末にかけてが中心で、後述の土壇・地下式壙群と時期的に平行、ないしは連なる遺構と思われる。この遺構は普請後、他の堀が造られた後も機能し続けたようで、宝永期も埋まり切らず溝状に遺存する。16号遺構において貝類が投棄されたのはこれ以降である。

（葬送・埋葬関連遺構）

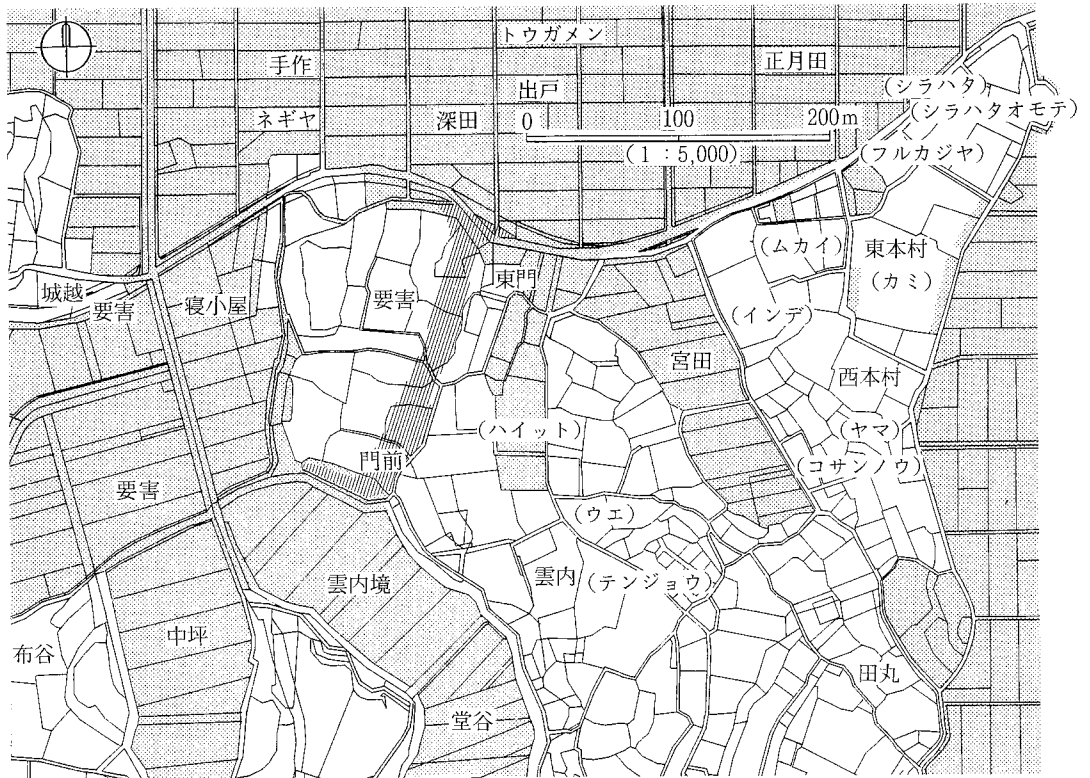
調査範囲の北半分は攪乱がひどく、堀以外の遺構は消滅していたが、南側において地下式壙24基、土壇墓2基、火葬遺構3基、溝及び切り土による区画跡など多数の中世遺構が検出された。墓壇・地下式壙・火葬遺構などの存在および出土遺物群の年代より、15世紀中葉から16世紀初頭にかけての墓域と想定する。傾向として全体的に城郭遺構より先行するようだ。ただし22号土壇墓は16世紀初頭の瀬戸・美濃系摺鉢（第16図21・22）が人骨と共に埋葬されており、16号堀普請期より後出と見られる。地下式壙は数群に分かれ、それぞれ血縁などによる展開と想定しうる。また、方形・長方形の玄室形状、掘込みの深さ、竪坑形状などから、個々の形態分類も可能である。玄室床面から間層を挟み、2・3枚ムシロなどの炭化物層が検出され、数度にわたる改葬を前提とした葬送儀礼が窺われる。多くの地下式壙は天井を崩し短期に埋め戻



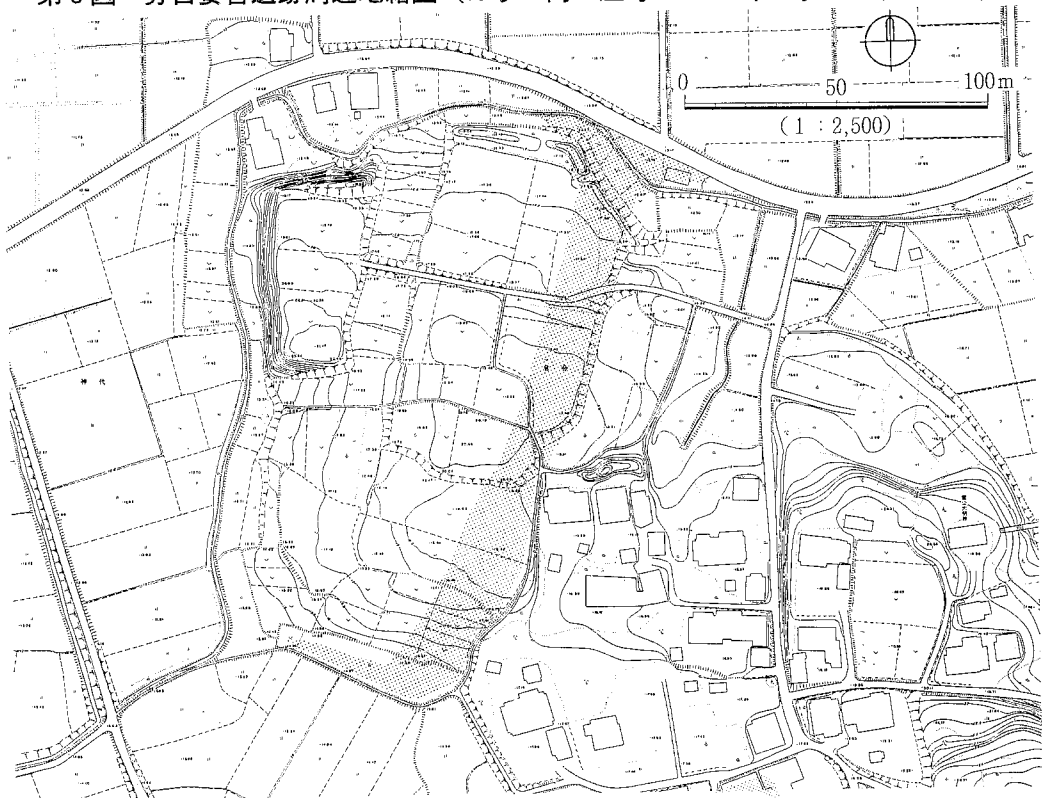
第1図 分目要害遺跡位置図 (明治19年迅速測図より、1 : 20,000)



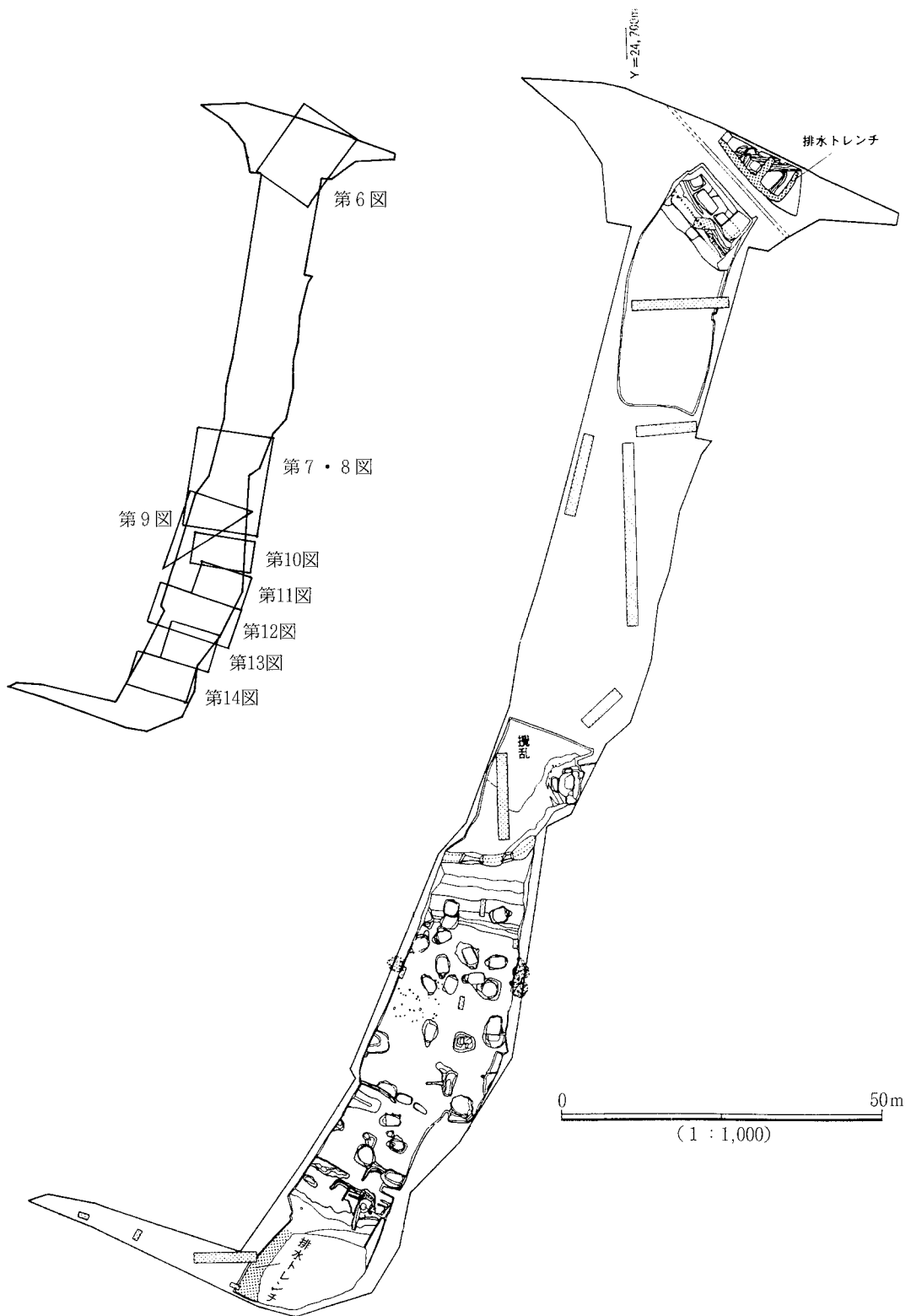
第2図 分目要害遺跡縄張り図 (第3・4図を基に作成)



第3図 分目要害遺跡周辺地籍図 (カッコ内は屋号 アミ部は水田・沼・湿地)



第4図 分目要害遺跡地形図 (国土地理院昭和36年航空写真より作成)



第5図 分目要害遺跡遺構配置図

された形跡があり（24A B・29・30号など）、2・3・20号堀普請期に墓域を破壊した可能性もある。11号地下式墳からは曲物および座棺の蓋と思われる木製品や、この背後に立てられた竹、五輪塔などが纏って検出された。草戸千軒町遺跡では、埋め戻し段階の祭祀で竹を立てた井戸が検出されており⁽²⁾、分目11号遺構も地下式墳より井戸として使用されていた可能性もある。この遺構は実際多量の水が湧き出る地点にあり、葬送儀礼には不向きと言わざるを得ない。石塔については11号廃絶時に投棄されたものと思われる。なお、一部の地下式墳は覆土中に米などの穀類炭化物を含む。ある程度玄室が埋没した段階で流入ないし崩落土中に投入されており、地下式墳廃絶時の行為と思われる。今後同様事例の蓄積が待たれよう。

2. 遺物

五輪塔・宝篋印塔、茶臼、輸入磁器、瀬戸・美濃系陶器、常滑系陶器、在地土器、銭、人骨などが出土している。陶磁器類を見ると、①15世紀中葉、②15世紀後半、③15世紀末葉から16世紀初頭の3期にかけて出土量のピークがあり、16世紀中頃になると急に乏しくなる。それぞれの定量は以下のとおりである（《》内は口縁部数）。

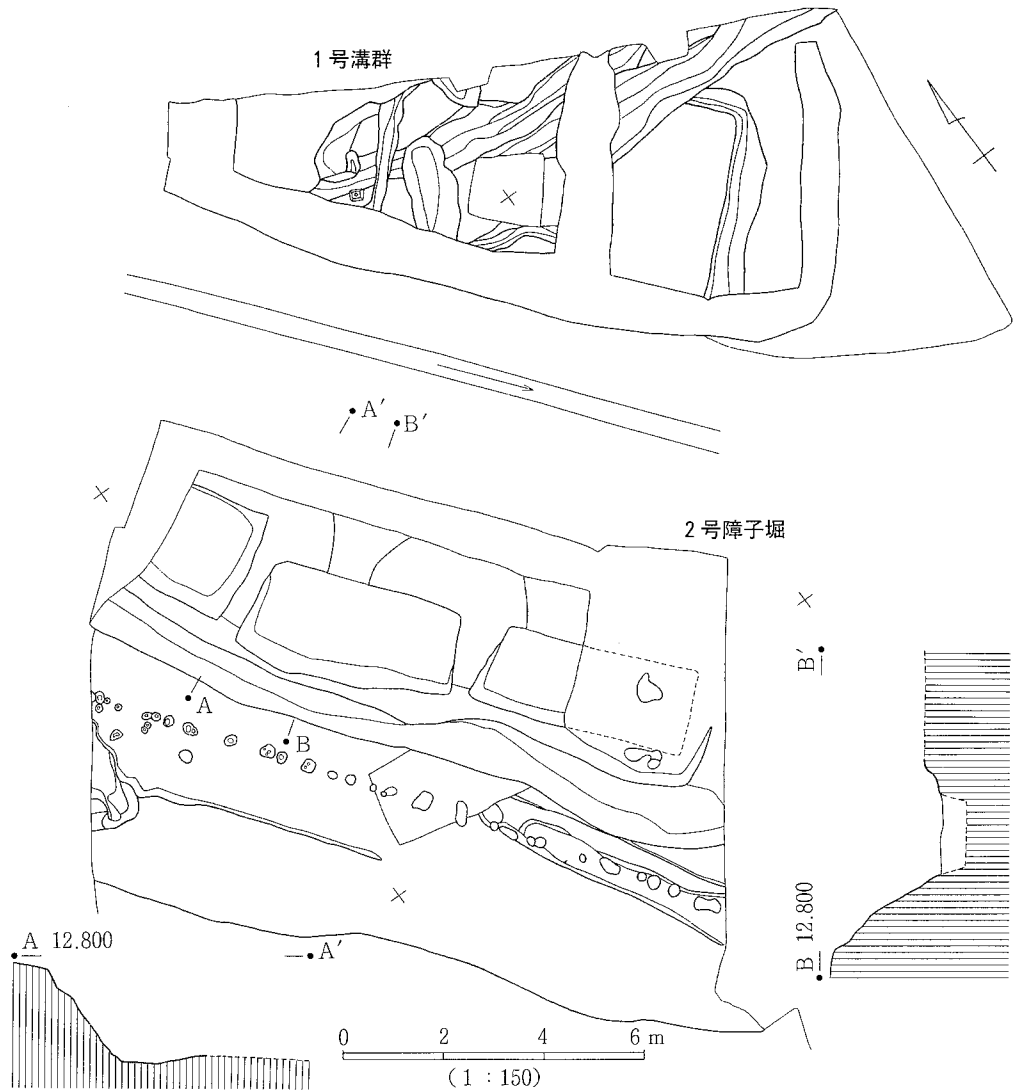
輸入磁器4点（青磁盤1点・端反皿1点・白磁皿2点）・瀬戸・美濃系陶器64点（天目茶碗2点・平碗1点・皿3点・盤3点・摺鉢51《20》点・壺4点）・常滑産陶器148点（甕123《8》点・鉢11《10》点・甕鉢不明14点）・在地土器69点（かわらけ59《45》点・台付かわらけ3点・摺鉢3点・鍋2点・ほうろく1点・不明土器1点）。

常滑甕など大型製品は別として、摺鉢とかわらけが多く出土している。陶磁器類遺物総量に対し、瀬戸・美濃系と在地系摺鉢が20%、かわらけが22%でほぼ同量の比率を占める。葬送儀礼の際、かわらけと摺鉢が同等の需要を有したことを暗示し興味深い。なお、地下式墳より検出された摺鉢はすべて破片であり、37A号・41号遺構出土遺物に接合関係も認められた（第16図26）。地下式墳における葬送儀礼の際、摺鉢・盤などを故意に破砕した可能性が強い。

輸入磁器は15世紀前期から中期にかけての遺物で、染付を含む新段階のものは出土しなかった。15世紀後期からは瀬戸美濃系陶器が増加しており、地方の消費傾向として輸入磁器の消失と関連を求めうる。白磁皿・青磁端反皿は、15世紀末の瀬戸・美濃系摺鉢と共に一括廃棄されており（第15図2・4・12）、前者が新陶器群と共に15世紀末まで使用されたことが窺えよう。かわらけについては、底部穿孔を施したものや「弁」銘の墨書を有する固体もある。

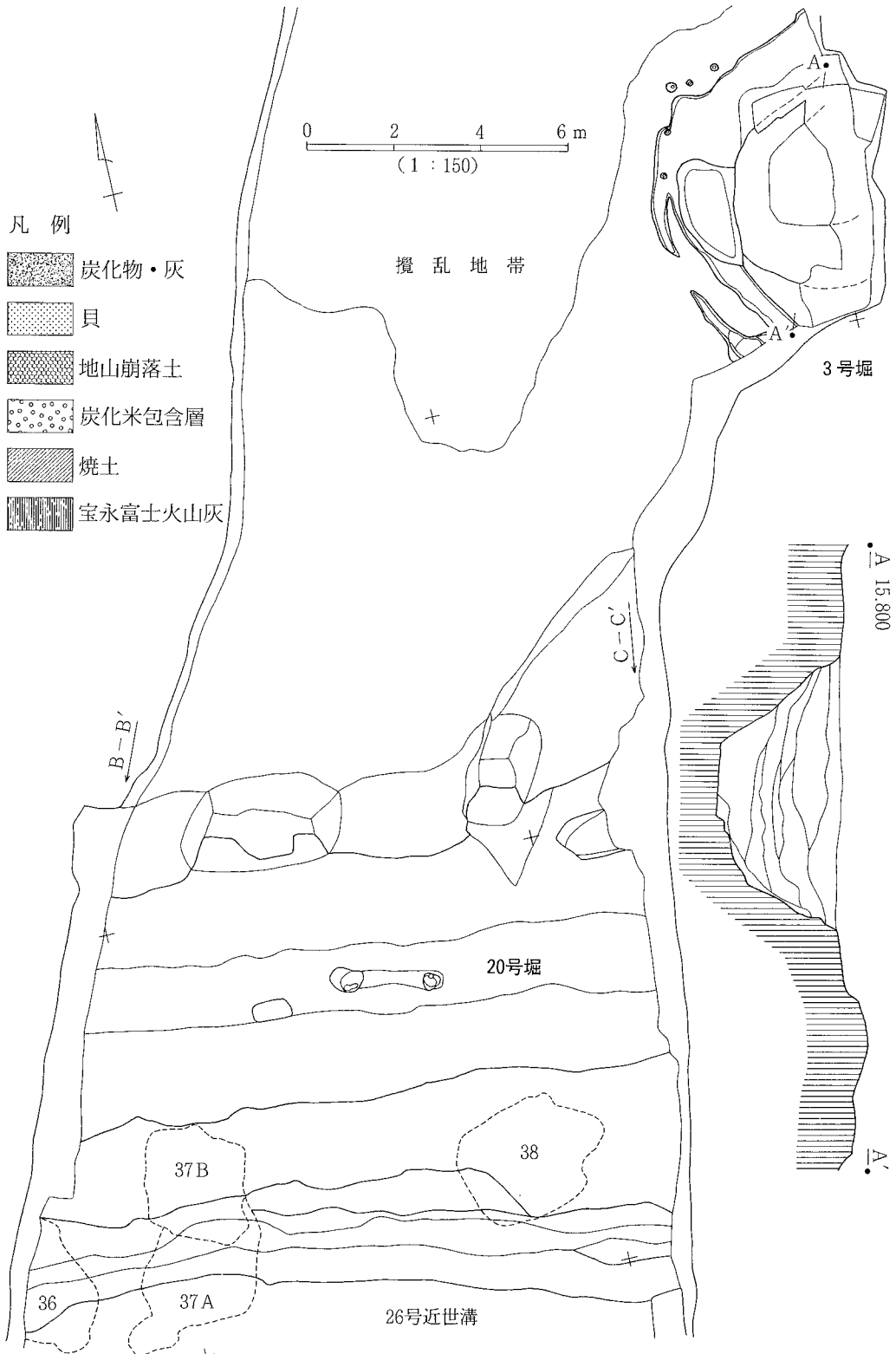
3、分目要害の縄張りについて

分目要害（字雲内より北側）は、周辺城館群に比べ優れた縄張りを持つ（第3図参照）。郭Ⅰは最高所で北辺に土塁が遺存する。かつてこの土塁は郭Ⅰの西・南面を加え三方に巡っていた。北西外面には微高地の平坦面が認められる（第2図①）。「寝小屋」という字名から、生活面の存在が推定しえよう。郭Ⅱは面積も広く、幾つかに区分された可能性が強い。かつて北面

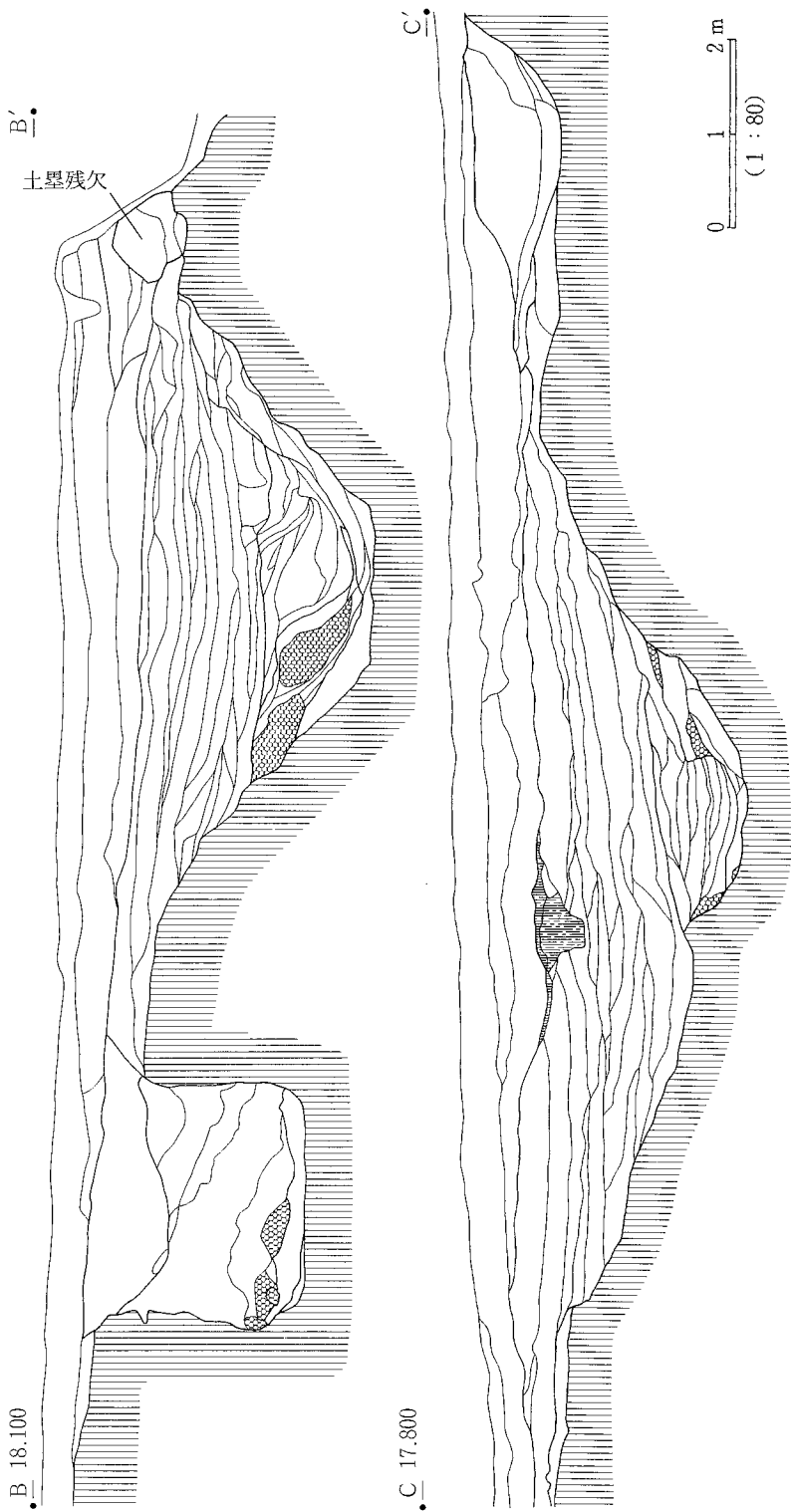


第6図 遺構平面図1 北端障子堀ほか

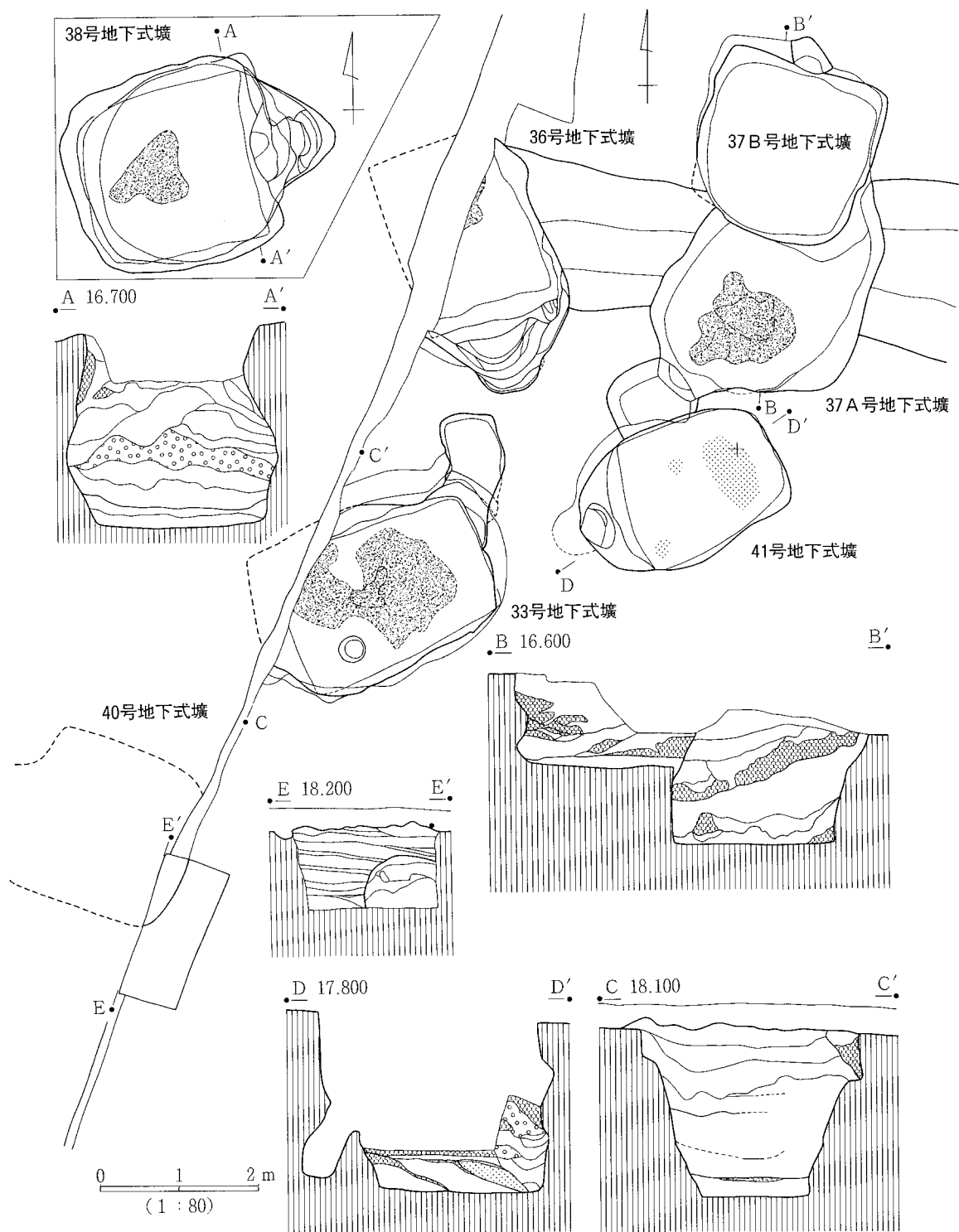
には土塁があり、更に柵列を伴う障子堀を廻らしていた(第2図②、2号堀)。東側は一段低い帯曲輪を形成し(第2図郭IV)、南面に虎口および帯曲輪自身の防護として土塁を築いている(第2図③)。この土塁は尾根に連なる南からの攻撃に有効で、攻勢を先に述べた3・20号箱堀間食違い虎口に絞り込む役割を担う。これをⅡ・Ⅲ・Ⅳの三方から防御する。中でも郭Ⅲは20号堀に面して土塁を廻らし、防備性が強い。標高も他より高く、虎口を見下ろして戦闘を行なえる。なお、郭Ⅲ北西に20号箱堀と同規模の堀を思わせる窪みが航空写真⁽³⁾から読み取れ(第2図④)、地籍図でも横長地筆を確認できる。ここは近年の攪乱がひどく、遺構の確認はできなかった。もし3・20号遺構規模の堀が地筆に沿って存在したとすれば、郭Ⅲは先に述



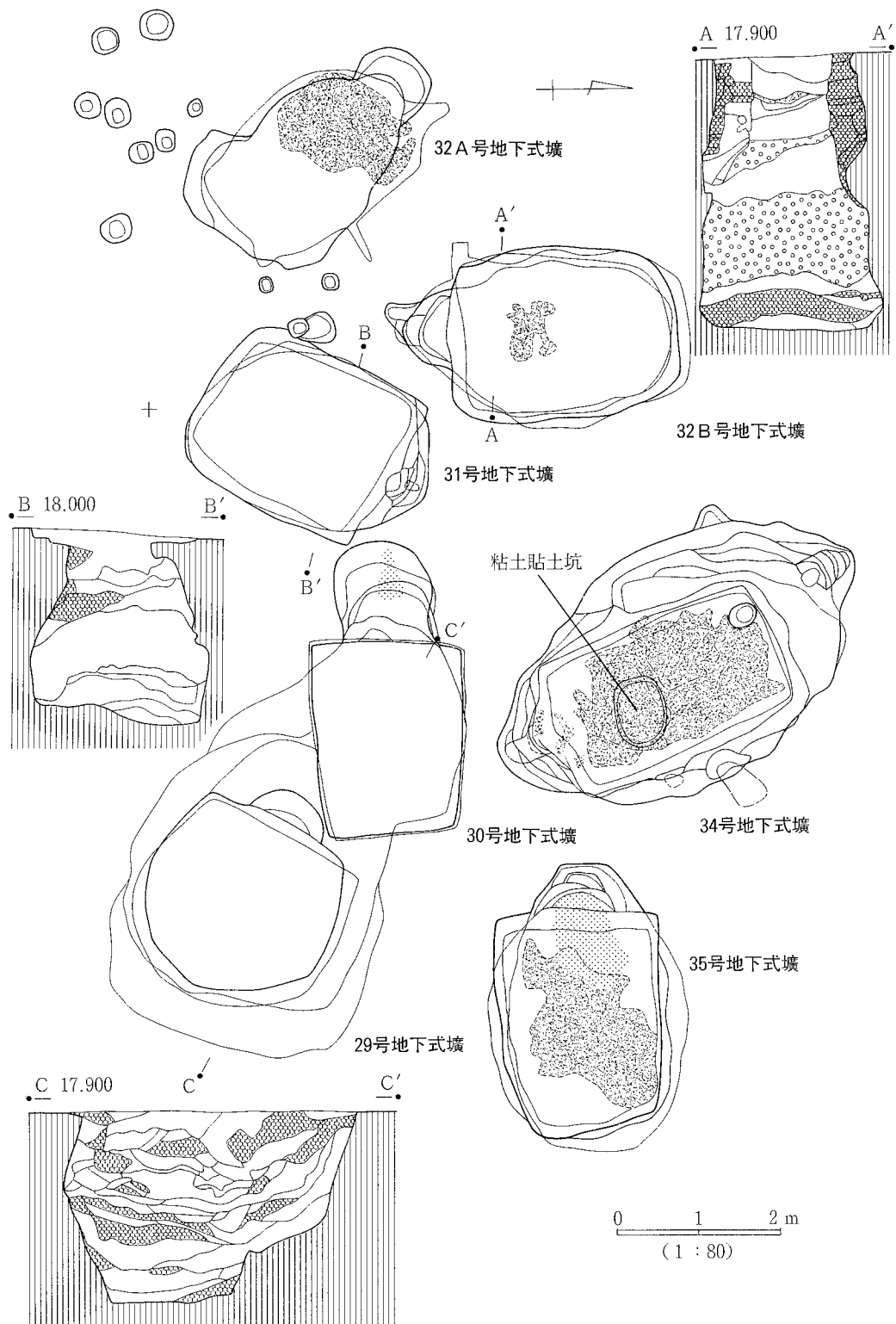
第7図 遺構平面図2 箱堀ほか



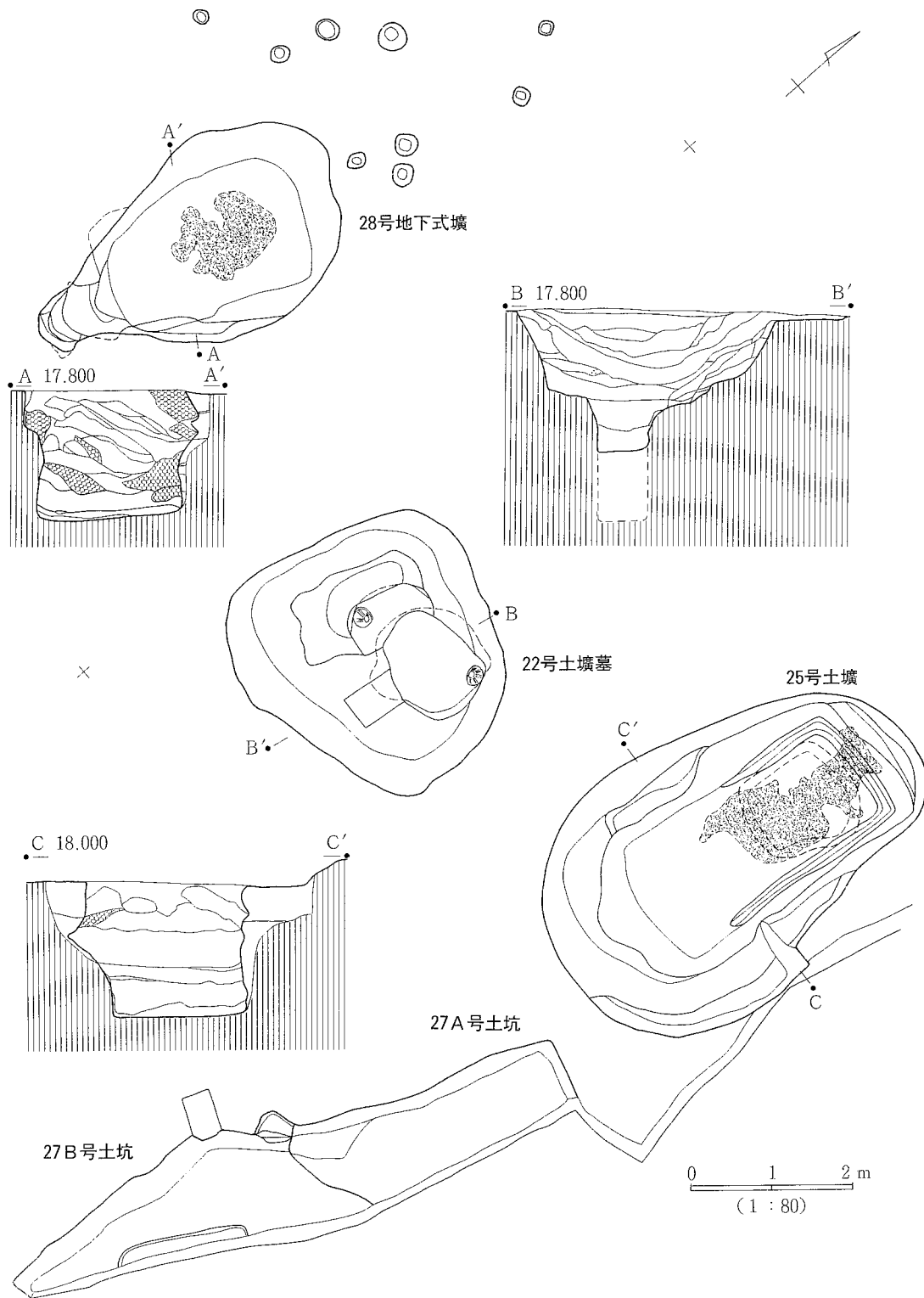
第 8 图 20号堀・36号地下式墳土層断面図



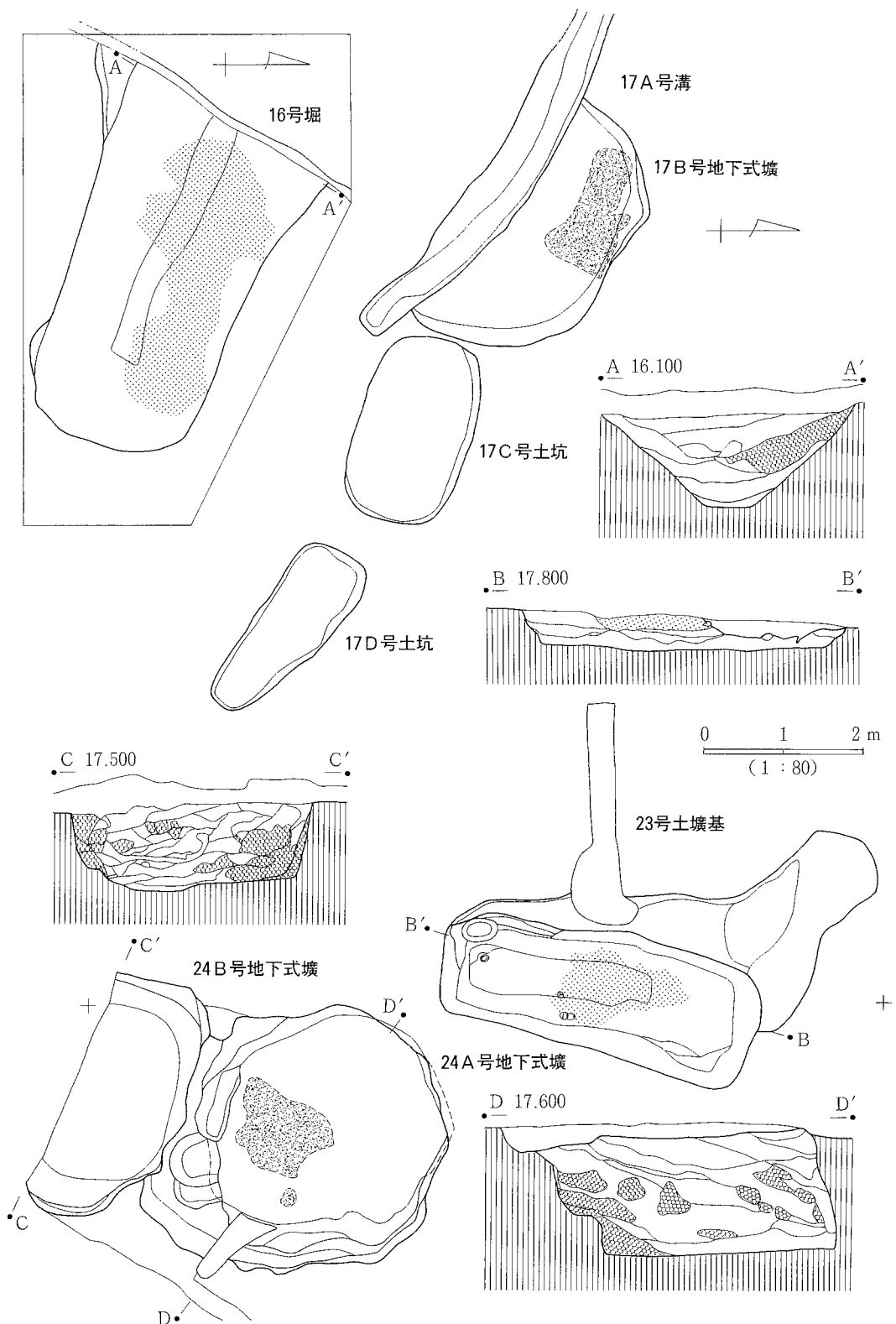
第9图 遺構平面图3 地下式墳群



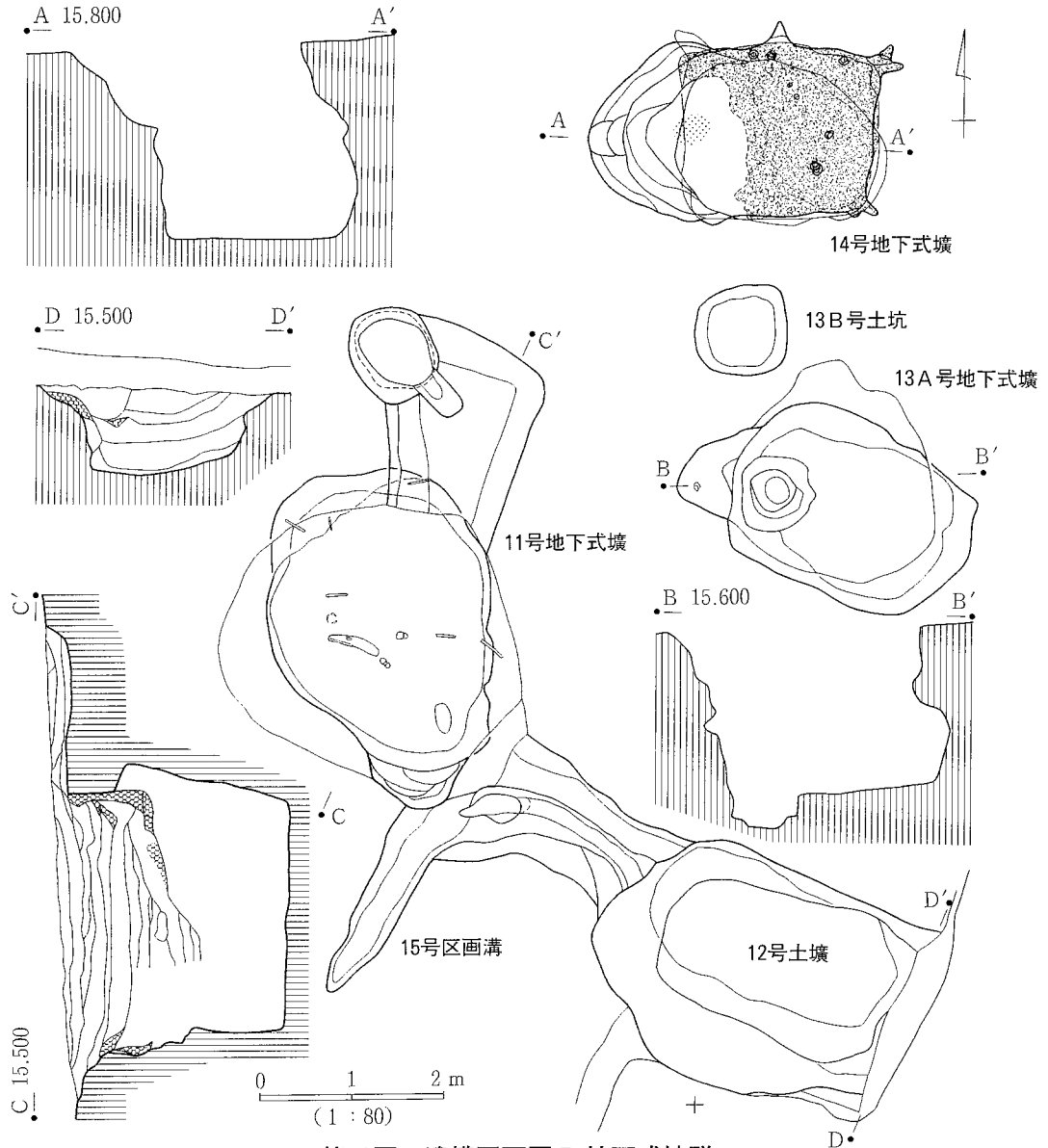
第10图 遺構平面図4 地下式壙群



第11图 遺構平面図5 土壙・地下式壙群



第12图 遺構平面図6 地下式墳・土坑墓・堀

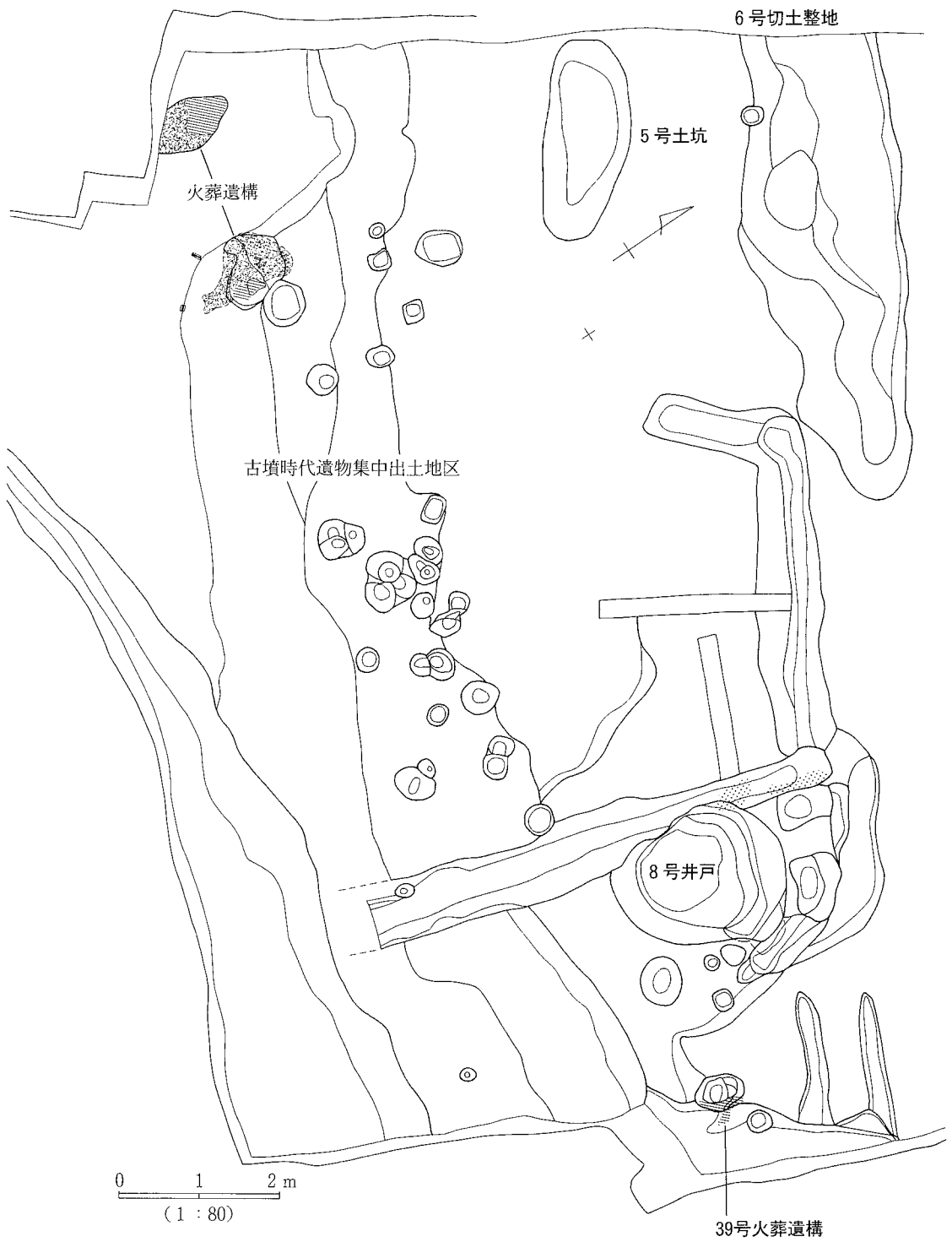


第13図 遺構平面図7 地下式墳群

べた箱堀と共に強力な馬出を形成することになる。また、郭IV東側も障子堀プラン延長上の小谷に面する。向かいの台地北端より、現道が土橋状を呈しながら小谷を渡り郭IVへ至るが、付近を東門という小字名で呼ぶことから、もう一つの虎口をここに推定しうる（第2図⑤）。

4、所見

分目要害は文献史料や伝承などが確認できず不明な点が多い。寝小屋などの地名や障子堀の存在などから、16世紀後半（永禄期頃）にかなり組織的・計画的に普請がなされたものと考えられる。それ以前、15世紀から墓域・城館は成立していたのであろうが、被葬者の階層などに



第14図 遺構平面図 8 井戸・火葬遺構ほか

ついて明らかにしがたい（地下式墳群については葬送関連、特に再葬施設と判断している）。墓域はこの段階において、先に述べた城館群に内包されていたものと思われる。周辺城館群はそれぞれが分目要害遺跡と同規模の小丘陵および微高地に展開しており、求心性も希薄である。このため養老川南岸一帯に領域支配を貫徹させようと成長しつつある在地領主、あるいは周辺村落に経済拠点を持つ小領主クラスの結合などが生み出した小城館群⁽⁴⁾と思われ、集落や検出された墓域との関連を考える上で興味深い。

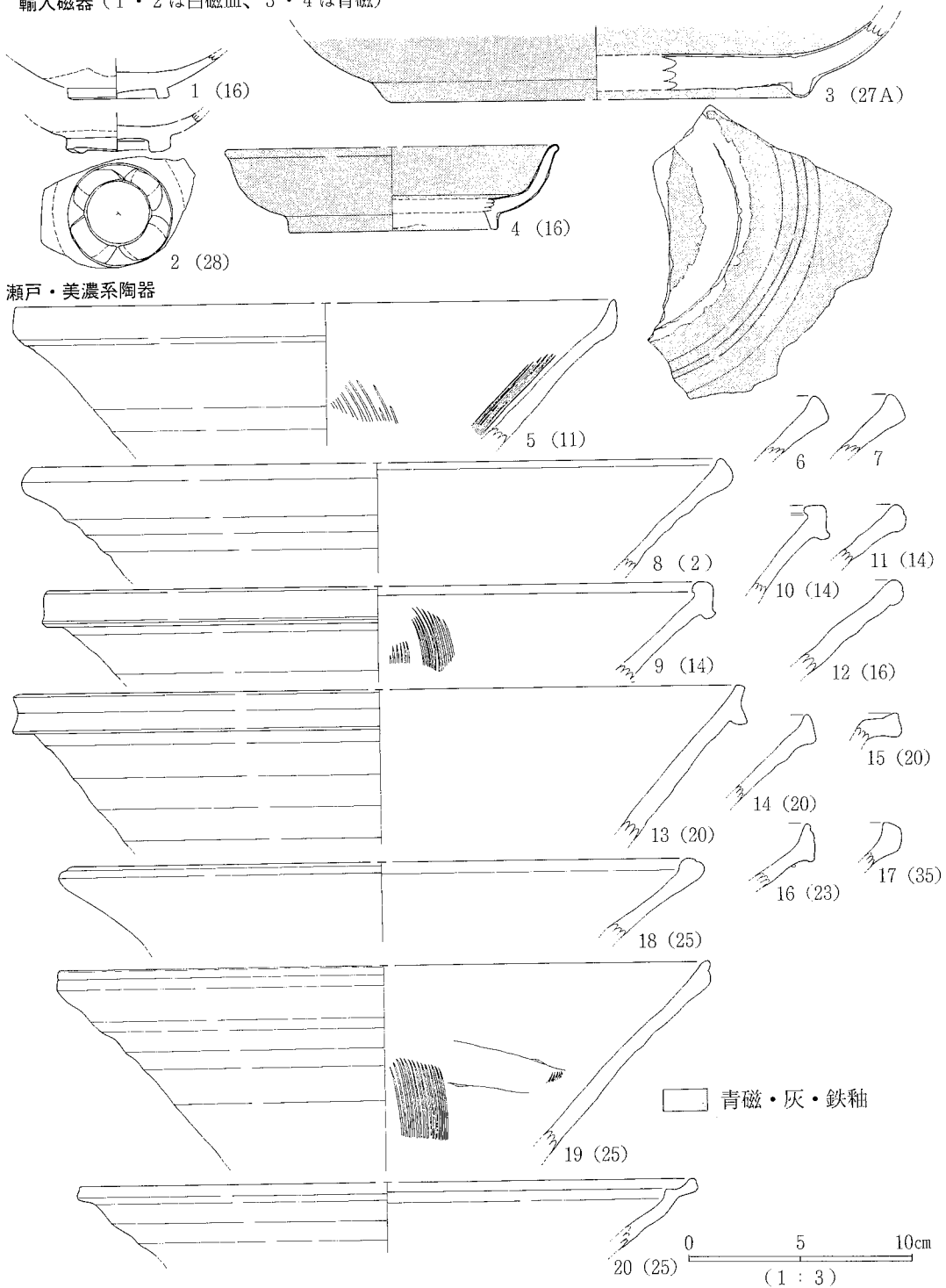
なお16世紀後半期は、沖積平野に突き出た丘陵部である要害遺跡の部分のみ、集約的な再普請がなされたと思われる。この際、地下式墳内に石塔を投棄、あるいは天井を崩し埋め戻した可能性が強く、外来勢力による破城行為の実施が想定される⁽⁵⁾。ここで再び築城主体が問題となろう。永禄期の文献によると、古河公方足利義氏より北条氏を通して、隣接地村上の在地領主と思われる村上氏へ当地域に対する領知権が与えられていたことが知れる⁽⁶⁾。村上氏が、関東足利氏伝統的家臣としての貴種性や、北条氏の政治・軍事的支援を背景に、当地一帯の上級領主として進出した可能性は強い。いずれにせよ北条氏勢力による影響が濃厚であることは事実と思われる。ただし16世紀中葉以降の遺物は極めて少ない。これは近年の大規模削平のため、15～16世紀前葉の墓域地区以外の遺構が湮滅していたことに原因を求められようか。城内・城下集落を一定規模に編成した痕跡は調査によって確認できなかったが、字「寝小屋」の微高地や「雲内」周辺など居住空間と思われる場所もあり、当段階で一定の生活面を取り込んでいたとは考えている。要害遺跡部分に関しては軍事的色彩の濃い城と言えそうである。

（櫻井敦史）

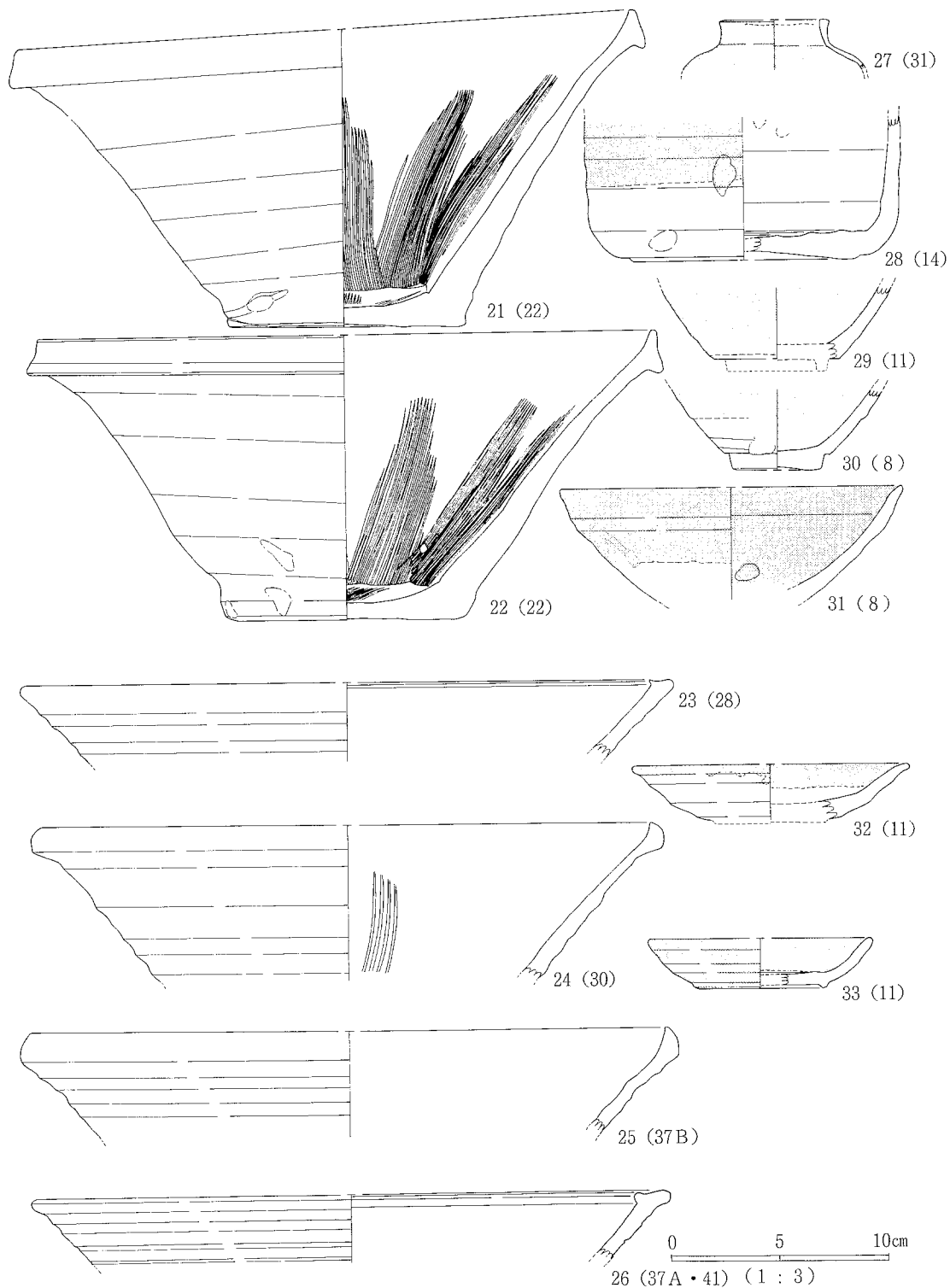
注 釈

- (1) 近藤敏「宮原堂谷遺跡」、櫻井敦史「分目要害遺跡」（『市原市文化財センター年報』平成4年度、所収）・田所真「分目要害城跡」（『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書Ⅱ』千葉県教育庁生涯学習部文化課編、平成8年発行、所収）
- (2) 水野正好「竹筒を残した一井とその秘呪」（『草戸千軒』No.36、広島県草戸千軒町遺跡調査研究所編、昭和51年発行、所収）
- (3) 昭和36年製造国土地理院航空写真。
- (4) 市原市内においては、類例として山木白船城跡が挙げられる。
- (5) 柴田龍司氏は城館出土の石塔検出状況を基に破城または改修時における墓所破壊の意味を論じており、興味深い。柴田龍司「堀跡や曲輪から出土する石塔」（『中世城郭研究第6号』中世城郭研究会編、平成4年発行）
- (6) 永禄3（1560）年足利義氏印判状（『喜連川文書』、『古河市史』史料中世編、1411号）・永禄3（1560）年10月14日北条家朱印状寫（『下総旧事五』、『戦国遺文後北条氏編』648号）

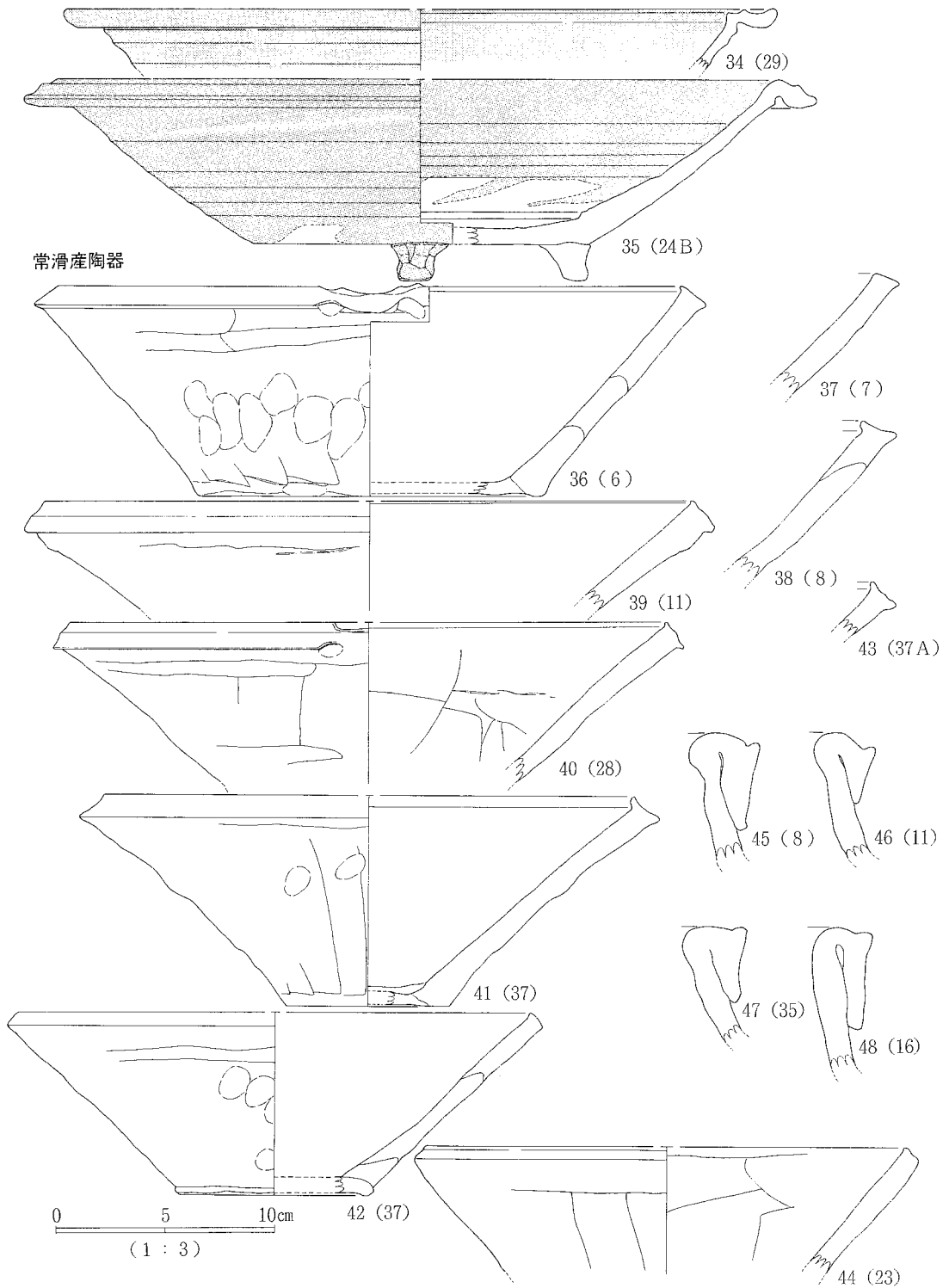
輸入磁器 (1・2は白磁皿、3・4は青磁)



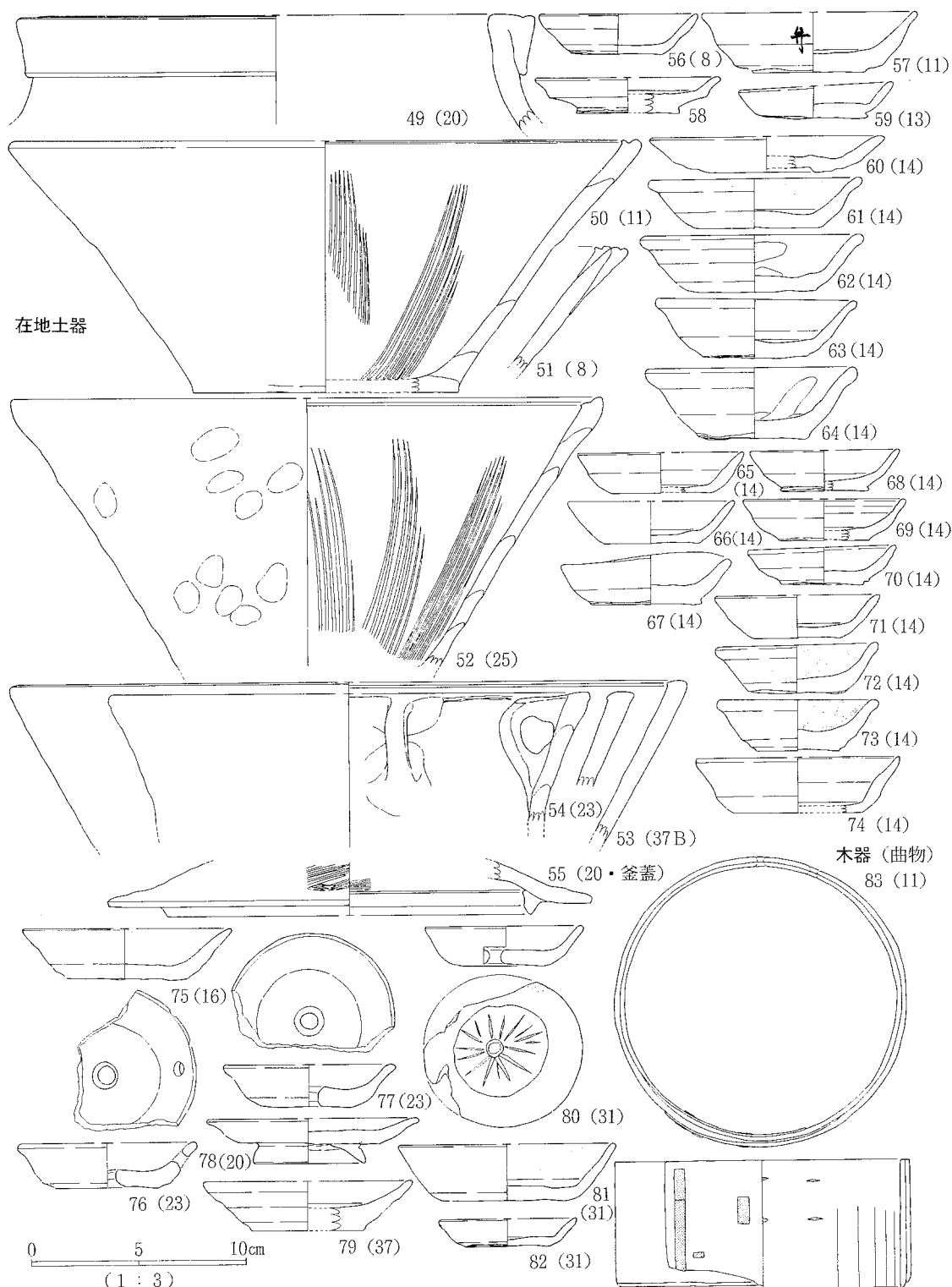
第15図 分目要害遺跡出土遺物実測図1 (カッコ内は遺構番号)



第16图 分目要害遺跡出土遺物実測図 2



第17図 分目要害遺跡出土遺物実測図 3



第18図 分目要害遺跡出土遺物実測図 4

5. 山田橋大塚台遺跡

事業名 都市計画道路草刈西広線建設工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市山田橋332 他

調査期間 平成5年4月1日～平成6年3月31日

調査面積 8,000㎡（本調査）

調査概要 山田橋亥の海道遺跡・表通遺跡・稲荷台遺跡・能満千草山遺跡・東千草山遺跡を始め、山田橋から能満にかけては縄文時代から古代にかけての遺跡が数多く調査されている。この中で平成5年度に、表通遺跡の南に続く山田橋大塚台遺跡の本調査を行った。台地中央部で東西に全長約310m幅約20～40mにわたって調査を行い、縄文時代早期から江戸時代にかけての多くの遺構を検出した。

縄文時代の遺構は、西に偏って30基を越える炉穴を検出した。遺物も調査区の西に集中して早期から後期の土器片・石器・黒耀石片等が検出された。

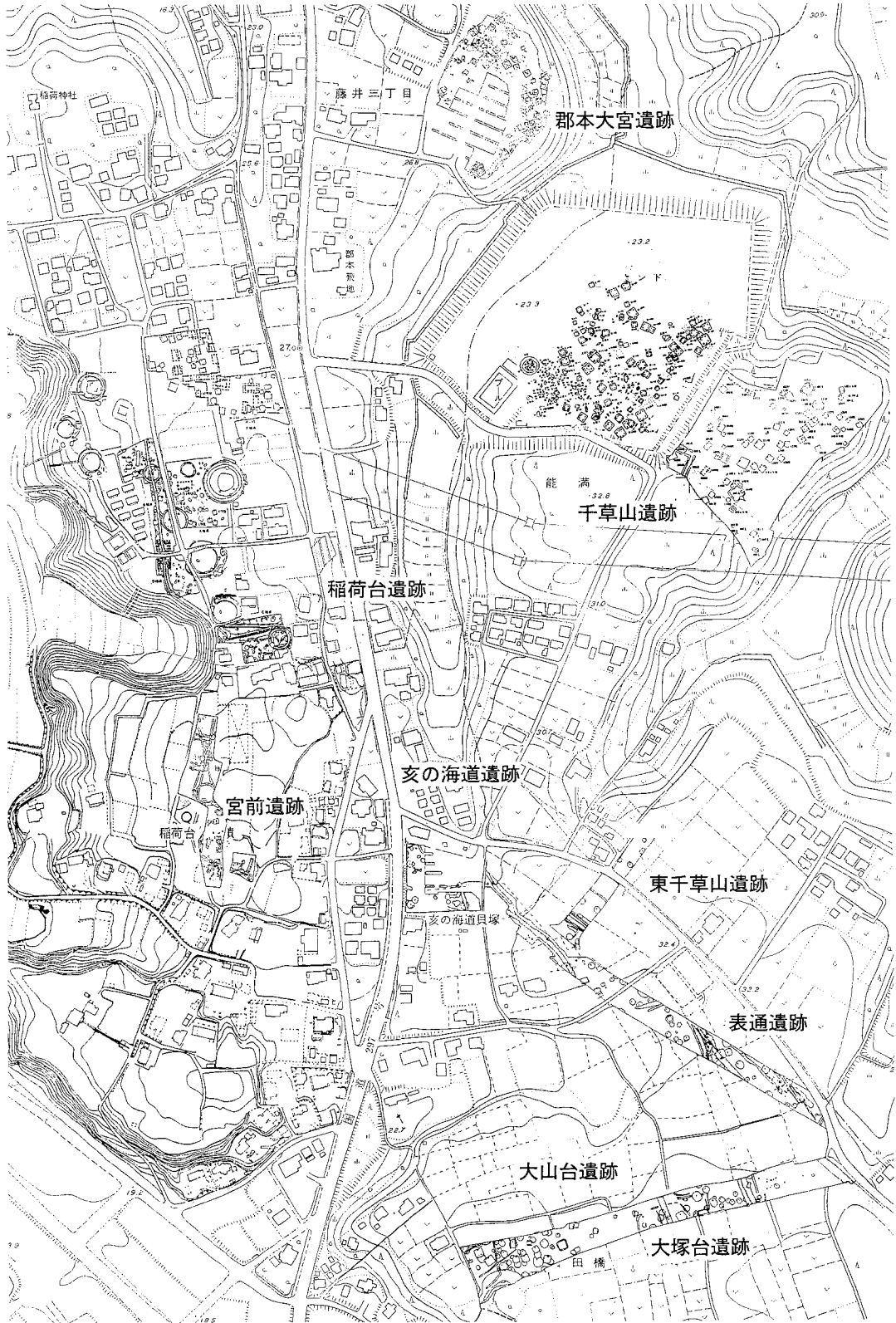
弥生時代は、56基の住居跡と土壌墓を検出した。住居跡は西側に大形の住居跡を中心とした一まとまりがあり、東側は小形のものが散在している。火災住居では、炉の周辺にミニチュア土器をはじめとする使用中のまま取り残された遺物が認められた。青銅製指輪・鉄製刀子・土製勾玉・丸玉などが出土している。

古墳時代の遺構としては、西端で推定直径43.2m、周溝幅約9m、高さ4mの山田橋大塚台古墳の北側の周溝を3分の1程調査した。他の遺構として前期住居跡1基・後期住居跡16基・一辺約10mの方墳周溝1基を検出した。住居跡はいずれも北側の壁にカマドを設けている。

古代の遺構は、住居跡3基・掘立柱建物跡2基・道路跡3条を確認した。道路跡は表通遺跡へ続き北東で亥の海道遺跡を経て稲荷台遺跡へと延びている。

道路跡は中世以後も続き、中央と東側の2条の遺構で最上層に宝永の火山灰が検出されたことから江戸時代にはその機能を停止したものと考えられる。中央の道路跡の縁に竪坑を持つ地下式墳が1基検出された。高さ3尺、幅6尺、奥行12尺を測り、地下室で17世紀末～18世紀初頭の陶器2点が、竪坑底面では煙管が出土している。その東に長方形の土壌と小竪穴があり、小竪穴から碗型の陶器と内部に鉄片が入った小形の壺が発見されている。地下式墳の最下層と、遺構を掘ったロームブロックの上層に宝永の火山灰が堆積することから18世紀初頭に構築された遺構である。さらに東に円形の土壌が続き、この地が江戸時代に墓域だった事が推定される。

表通遺跡との間の大山台遺跡と、北西の亥の海道遺跡で平成7・8年度に調査が行われ、前者では弥生の集落の続きと道路跡が、後者では稲荷台遺跡に続く道路跡を検出している。集落の限界と古代道路の性格の解明にとっての新たな資料となるであろう。（半田 堅三）



大塚台遺跡と周辺の遺跡（縮尺5,000分の1）

6. 釜^{かま}神^{かみ}遺跡

事業名 都市農業センター建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市浅井小向499-1 他

調査期間 平成4年10月1日～平成6年9月31日（平成4年度からの継続事業）

調査面積 18,000㎡のうち11,000㎡（平成5年度分本調査）

調査概要 遺跡は、姉崎台地の北東隅部、養老川左岸にあり、右岸真北方向の諏訪台遺跡、天神台遺跡と対峙する位置関係にある。調査は、市農業センターの公園建設にともない、まず、平成4年度に確認調査を実施し、その成果をうけ、対象面積23,000㎡のうち18,000㎡に対して本調査を実施することとなった。本調査は、平成4年度に7,000㎡、当年度は残り11,000㎡を対象とした。

調査の結果、平成4年度を含め、弥生時代中期から平安時代にいたる竪穴住居跡234軒、平安時代の掘立柱建物跡3棟、古墳時代前期の方形周溝墓5基、古墳時代中期から後期の円墳9基、土坑49基、溝36条などが検出された。

時期的な変遷は、弥生時代中期後半の居住域としての利用にはじまり、これは、弥生時代後期において台地全域に拡大する。今回検出された竪穴住居跡の大半はこの時期のものと考えられ、とくに台地中央部から北側にかけて激しく重複する。その後、弥生時代終末期、古墳時代前期の竪穴住居跡も散見されるが、基本的には、古墳時代前期に墓域化する。このうち、台地頂部につくられた方形周溝墓S X 01は、周溝を含む外径が37mをはかり、この時期としては特殊な周溝四隅が開口する形態をとる可能性がある。なおS X 01の墳丘部は、江戸時代末以降に「浅間塚」として再利用され、いまだその下部に保存されている。ただし、これは公園内に保存されることとなったため、調査は部分的なものにとどまった。

古墳時代中期前半には、台地西端部に小規模な竪穴住居群が形成され、北側台地縁辺部の円墳群と時期的な接点をもつ可能性がある。ただし、南側に連続する尾根との鞍部にある円墳群については、これより後出する。その後、古墳時代終末期、奈良時代後半期、平安時代と、それぞれ選地を若干変えながらも、とくに東側支谷に面して断続的に竪穴住居がいとなまれている。

なお、台地南側斜面には、11世紀代に、台地整形をともなう掘立柱建物等一連の施設がつくられるが、これについては平成4年度年報で述べてある。

釜神遺跡の整理作業は、平成8年度より実施されており、詳細は本報告にゆずることとした。

（大村 直）



釜神遺跡全体図 (1/800)
 網部方形周溝墓・古墳周溝

7. ^{かんざきとう かんだい}神崎東官台遺跡

事業名 市内遺跡発掘調査

所在地 市原市神崎字東官台383 他

調査期間 平成5年6月16日～平成5年7月13日

調査面積 2,768.56㎡のうち330㎡（確認・一部本調査）

調査概要 村田川左岸台地上標高約50mの地点に所在する。同川流域においては、これまで散発的ながら、発掘調査が実施されている。本遺跡より上流約3kmの右岸には、小田部古墳を含む小田部向原遺跡、やや下った左岸においては小田部新地遺跡がある。本遺跡の対岸では潤井戸天王台古墳群、下鈴野遺跡、中潤ヶ広遺跡等で調査が実施されている。

今回の調査は、神崎町会の町会広場建設に先行して、国庫補助事業として調査を実施したものである。調査の結果、弥生時代後期等の住居跡5軒、近世の墓墳等が検出された。このうち住居跡2軒からは、比較的まとまって土器が出土している。詳細は既に刊行されている下記報告書を参照されたい。

（高橋康男）

「東官台遺跡」『平成5年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会 1994

8. ^{たか くら みぞ さく}高倉溝谷遺跡

事業名 市内遺跡発掘調査

所在地 市原市高倉字溝谷289

調査期間 平成5年7月14日～平成5年7月20日

調査面積 1,026㎡のうち100㎡（確認調査）

調査概要 村田川左岸の小支谷に面した標高約600mの台地上に所在する。本遺跡を含む所謂市東地区は、これまで開発とは縁遠い地域であったと言え、埋蔵文化財の発掘調査の事例はほとんどなく、わずかに東国吉川中遺跡の調査を挙げうるのみである。

今回の調査は、高倉町会の町会広場建設に伴い、国庫補助事業として実施したものであり、調査の結果、縄文時代早期の撚り糸文系の土器、およびいわゆるカワラケの出土が認められたものの、それらに伴う遺構の検出はなかった。

今後、本遺跡を含む周辺一帯においては、大規模な区画整理事業が実施される計画があり、開発事業に伴う発掘調査も活発になることが予想される。歴史の実像がよりあきらかになるであろう。

（高橋康男）

「高倉溝谷遺跡」『平成5年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会 1994

9. 月崎寺の台遺跡

事業名 市内遺跡発掘調査

所在地 市原市月崎字寺の台1096-2

調査期間 平成5年7月21日～平成5年8月5日

調査面積 1,214㎡のうち120㎡（確認調査）

調査概要 養老川上流左岸の標高約90mの台地上に存在する。今回の調査は同川流域ではこれまでの最南部である。周辺における調査例は少なく、わずかに約1km下流の飯給道生掘遺跡の縄文時代後期の住居跡の調査例があるのみである。

今回の調査は、永昌寺の墓地造成に先行して実施し、その結果、縄文時代中期加曾利E式を中心とする土器が多く検出された。土器片錘の出土も認められ、漁労との関連も示唆される。ただし、貝の散布が周辺においても認められなかったことは、飯給道生掘遺跡と同様である。確認調査は4本のトレンチによる調査で終了し、平成6年度に、本調査を実施した。なお、出土遺物等については、確認調査の報文を参照されたい。（高橋康男）

「月崎寺の台遺跡」『平成5年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会 1994

10. 菊間深道遺跡

事業名 市内遺跡発掘調査

所在地 市原市菊間1973番地の一部

調査期間 平成5年11月25日～平成5年12月13日

調査面積 1,174㎡のうち150㎡（確認調査）

調査概要 村田川下流左岸の菊間古墳群を構成する、東関山古墳の東側に隣接する箇所調査であった。菊間国造の本拠と目されている一帯であり、菊間遺跡、菊間手永遺跡等の調査が周辺で実施されている。

社会福祉施設の建設に伴う調査で、地権者の耕作物の間にトレンチを設定して調査を進めた。

調査の結果、東関山古墳の周溝と判断した溝、V字溝、住所跡7軒等を確認した。また覆土中から相当量の遺物の出土があった。ただし、V字溝、東関山古墳の時期推定の手掛かりとなるような良好な遺物の出土はなかった。特徴的な遺物については、報告書に記載してあるので、参照されたい。（高橋康男）

「菊間深道遺跡」『平成5年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会 1994

11. 古甲^{ふるこう}遺跡（地中レーダー探査）

事業名 上総国府推定地確認調査

所在地 市原市郡本3丁目239番地

探査実施期間 平成6年3月15日～平成6年3月16日

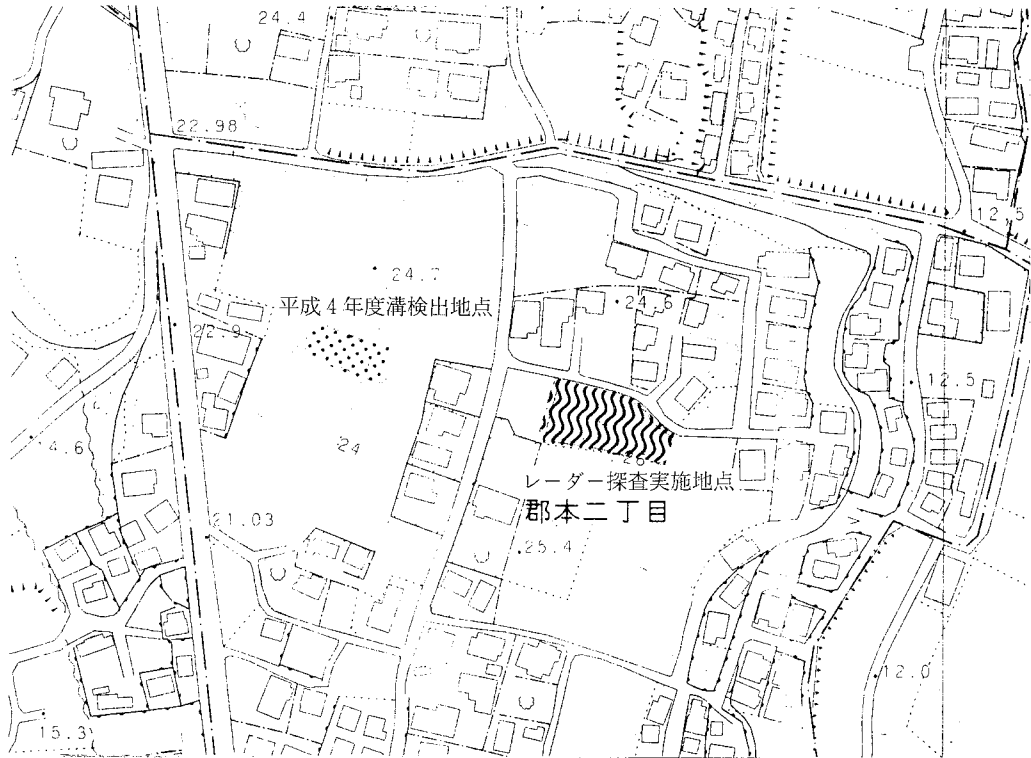
探査面積 638㎡

調査概要 平成元年度から開始された上総国府推定地確認調査の4ヵ年目にあたる本年度は、過去4ヵ年の調査成果の整理報告および、平成4年度に検出された溝の延長上の状況を把握するため、地中レーダー探査を委託して実施した。ここでは、地中レーダー探査の概要を中心に述べる。なお、過去4ヵ年の発掘調査の内容(1)、およびレーダー探査の原理、最近の成果等(2)については、下記参考文献を参照されたい。

平成4年度の発掘調査の際には、現在の地割りに沿う形で、溝が検出された。数度の掘り直しがあったことが断面視察から伺われ、全体を掘り上げた状態では上端幅約5m、下端2m前後で深さは約2mに及ぶ部分もあり、比較的大規模な溝といえた。この溝の性格については、①何らかの区画施設、②道路、の2つの可能性が考えられたが、結論を出すにはおよばなかった。いずれにしろ、断片的な成果であり、延長上の状況についてさらに把握する必要があると判断された。このような課題に対して、確認された溝の規模から地中レーダーによる探査も有効ではないかと判断された。実際に発掘するにまさる検証方法はないのは確かであるが、測線の設定方法によっては、地下の遺構の面的な把握が可能なこと、遺構保護の観点および期間・経費等を勘案し、今回の探査実施にいたったものである。

地中レーダー探査については、平成元年度に山倉天王・堂谷貝塚、能満分区貝塚において、応用地質(株)に委託して実施した事がある。この時は、貝層の広がり把握を主眼としたもので、測線間隔を広く設定し測線の方向も南北方向を中心としておこなった。今回の探査実施にあたっては、遺構の埋没状況を面的に把握することを目標とし、平成4年度に検出した溝の東側の畑2筆を探査対象地として選定し、桜小路電気(株)に探査を委託した。測線間隔は1mとし、南北、東西の両方向に測線を設定した。対象地に1m間隔の網をかぶせたような形となった。

探査の結果、4年度に検出された溝の断面形と同様な逆台形を呈する地形を捕らえることはできなかった。探査対象地の西南端から北東方面に直進し、中央よりやや東側で逆L字型に北方へ曲線的に屈曲する、段差状の地形が捕らえられている。逆L字型の内側が低く、外側が高いことが読み取られた。この落ち込んだ地形に対応するような立ち上がりを示す地形は観測されておらず、溝とは判断しがたいことを、探査の結果は示している。このような埋没した地形



地中レーダー探査実施地点と平成4年度溝検出地点（1/2,500）

にかかるとデータ以外に硬質な物体或いは土壌の存在を表現すると見られる箇所が点在あるいは面的に存在する事も確認されている。

平成4年度で検出された溝の断面形態と今回の地中レーダー探査で得られた埋没地形の断面形態が一致しないことから、平成4年度の発掘調査箇所と今回のレーダー探査実施箇所との間に断面状態の不連続をもたらす要因が存在すると思われる。民家部分あるいは現道部分の状況が把握出来ない現状においては、当面、溝の延長上の具体的様相については保留せざるを得ない点が多い。

（高橋康男）

参考文献 (1)「上総国府推定地確認調査報告書(1)」1994 市原市教育委員会 (財)市原市文化財センター

(2)文部省科学研究費補助金 重点領域研究『遺跡探査』にかかると「ニュースレター」『研究成果検討会議論文集』等が重点領域研究『遺跡探査』事務局より平成元年度より発行されている。

12. ^{あらいおきわらの}新生荻原野遺跡 A 区

事業名 (仮称) 後樂園市原レクリエーションワールド建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市新生字西荻原野一帯

調査期間 平成5年11月16日～平成6年3月29日

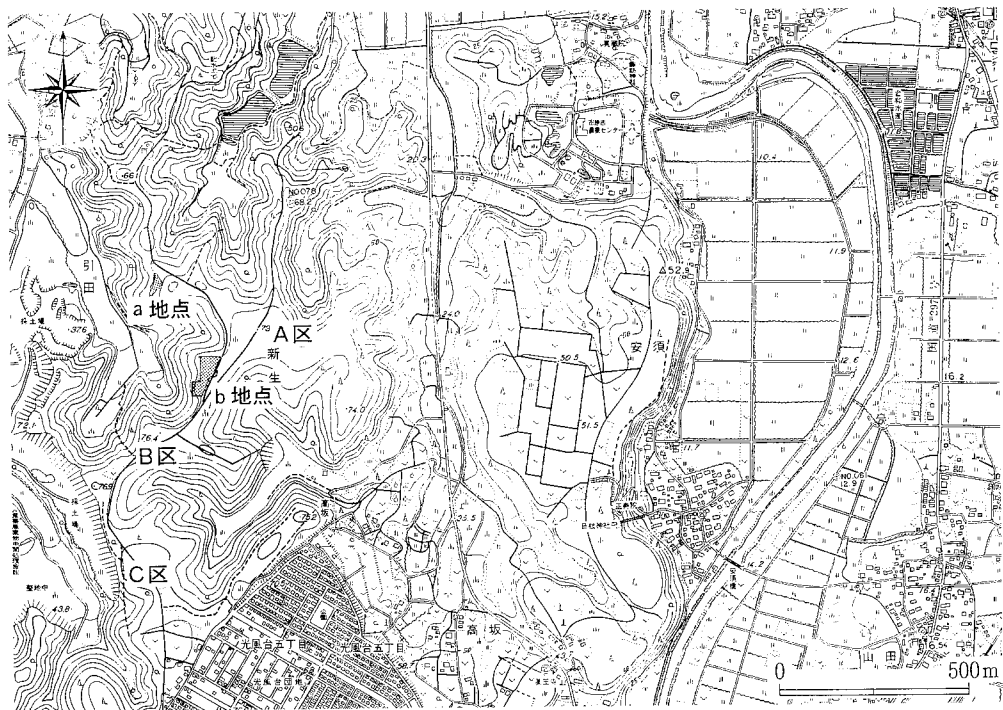
調査面積 4,518㎡ (本調査)

調査概要 新生荻原野遺跡は、養老川の下流域平野を望む左岸台地(姉崎台地の北東端)に位置している。

当遺跡については、昭和63年～平成元年度に荻原野遺跡A区として、台地平坦部分全域にわたり確認を行い、おおかたの部分について本調査を終了したが、今回その残りの部分についての発掘調査となった。前回の調査では、近世の三山塚1基、古墳時代終末期の方墳17基を検出したほか、縄文時代早期の住居跡11軒、中期4軒、早期の土坑・炉穴・陥し穴など多数を検出した。

今回の調査結果、縄文時代早期の炉穴6群、縄文時代陥し穴2基、同土坑22基、奈良時代方形周溝状遺構1基、奈良・平安時代の溝1条、中・近世の土坑20基などが検出された。

炉穴は、b地区調査範囲の北側で集中して検出された。いずれも3～7基の炉穴が複合する形で群となっており、覆土中から早期条痕文系土器片が出土している。陥し穴は、調査区の中



新生荻原野遺跡位置図

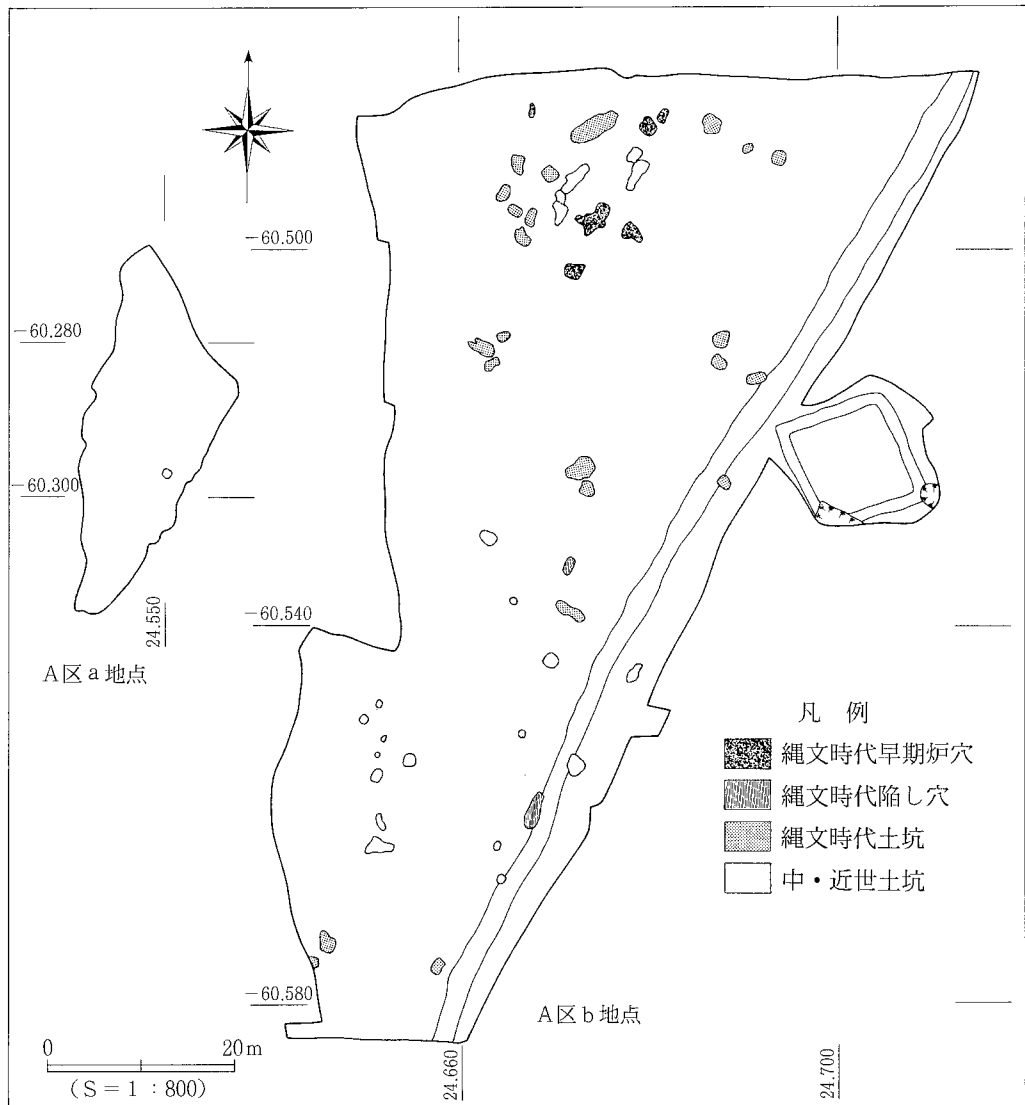
央から南にかけて長軸を南北方向に向けた状況で検出されている。

b地区の東側で検出された奈良時代方形周溝状遺構は、周溝上端の外側で13m（内側10m）、周溝は断面逆台形をなしている。上部構造については、既に削平され、墳丘・主体部などは、検出されなかった。

同じくb地区で検出された北東-南西方向に走る溝は、幅約2m、深さ0.4mを測り、断面がやや丸みを帯びた逆台形をなしている。時期については、覆土内の遺物・土層から奈良・平安時代とした。なお、この溝は、新生・引田地積とを分ける大字境にはほぼ一致している。

このほか、検出された土坑については、そのほとんどが不整形な形状で性格等を特定できるものではなかった。

(小出紳夫)



13. 土宇下原遺跡B地点

事業名 東林寺墓地造成工事に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市土宇1101-23番地 他

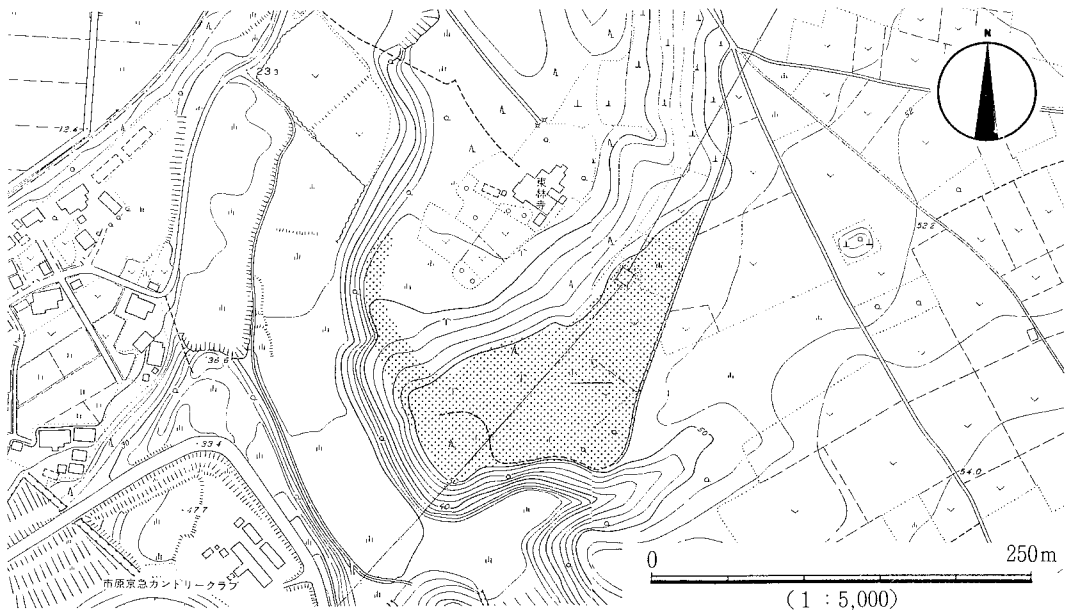
調査期間 平成5年5月10日～平成5年6月8日

調査面積 16,000㎡のうち640㎡（確認調査）

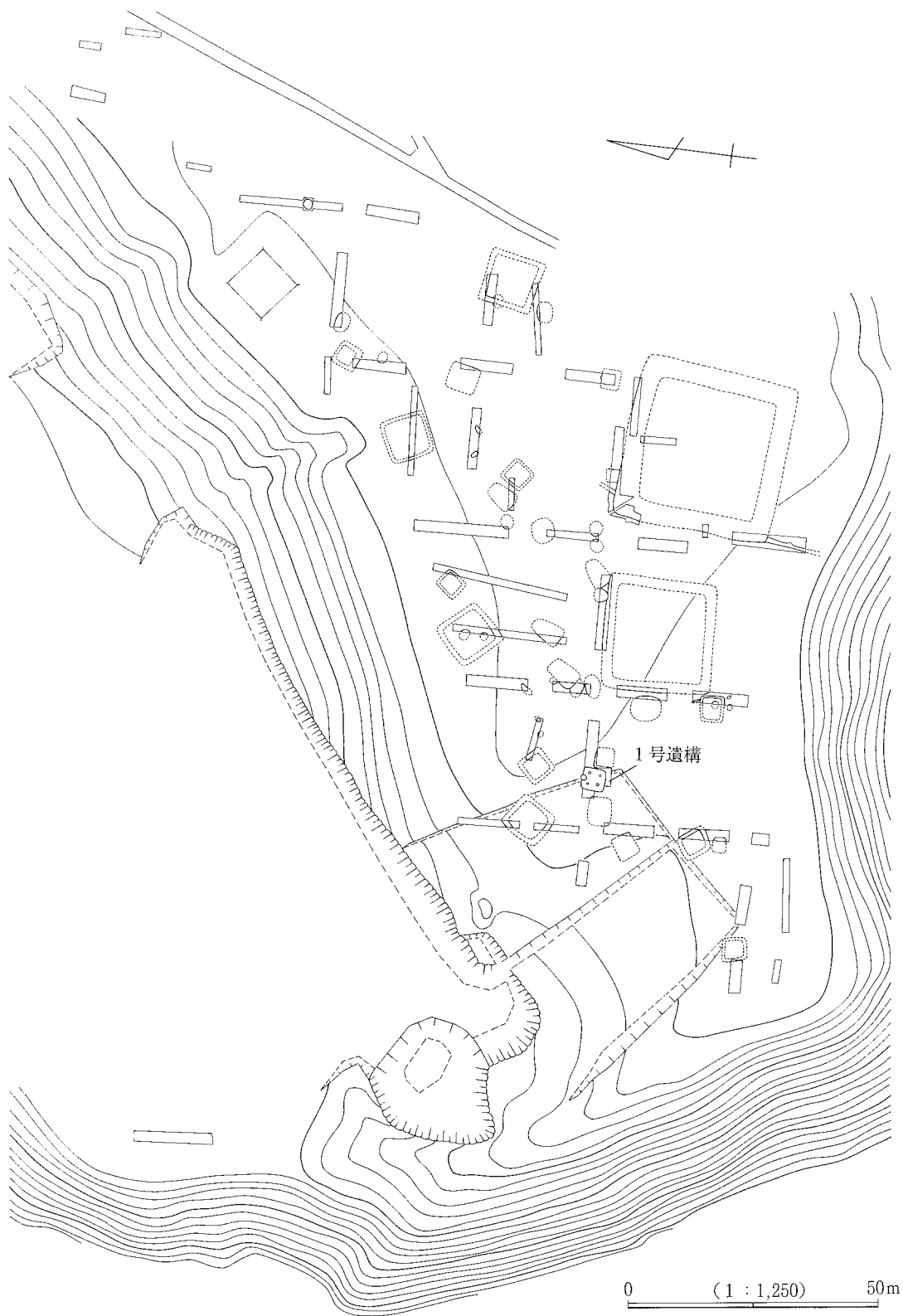
調査概要 本遺跡は、養老川右岸の標高51m前後の舌状台地上に位置する。昭和60年度に当遺跡の北側の段丘面で、小規模ながら本調査が行われ、弥生時代後期～古墳時代後期の竪穴住居跡や、中近世の火葬墓等が検出されている。また、平成3年度においては、その北側において確認調査が行われ、弥生時代後期から古墳時代後期にわたる竪穴住居跡を主体として、中近世の土坑等をふくむ遺構群が広範囲にわたり検出されている。

当遺跡においては、古墳時代終末期方墳2基、方形周溝状遺構11基、縄文時代早期竪穴住居跡5軒、古墳時代後期竪穴住居跡7軒、縄文時代土坑等が確認されている。このうち、第12トレンチ内にある竪穴住居跡（1号遺構）については、床面及び遺物等が露出したため完掘したが、形態は方形プランで、北-南軸長4.7m、東-西軸長4.5mを測る。北東部のP5・P6は、位置的に貯蔵穴と見られるが新旧関係は、はっきりしない。

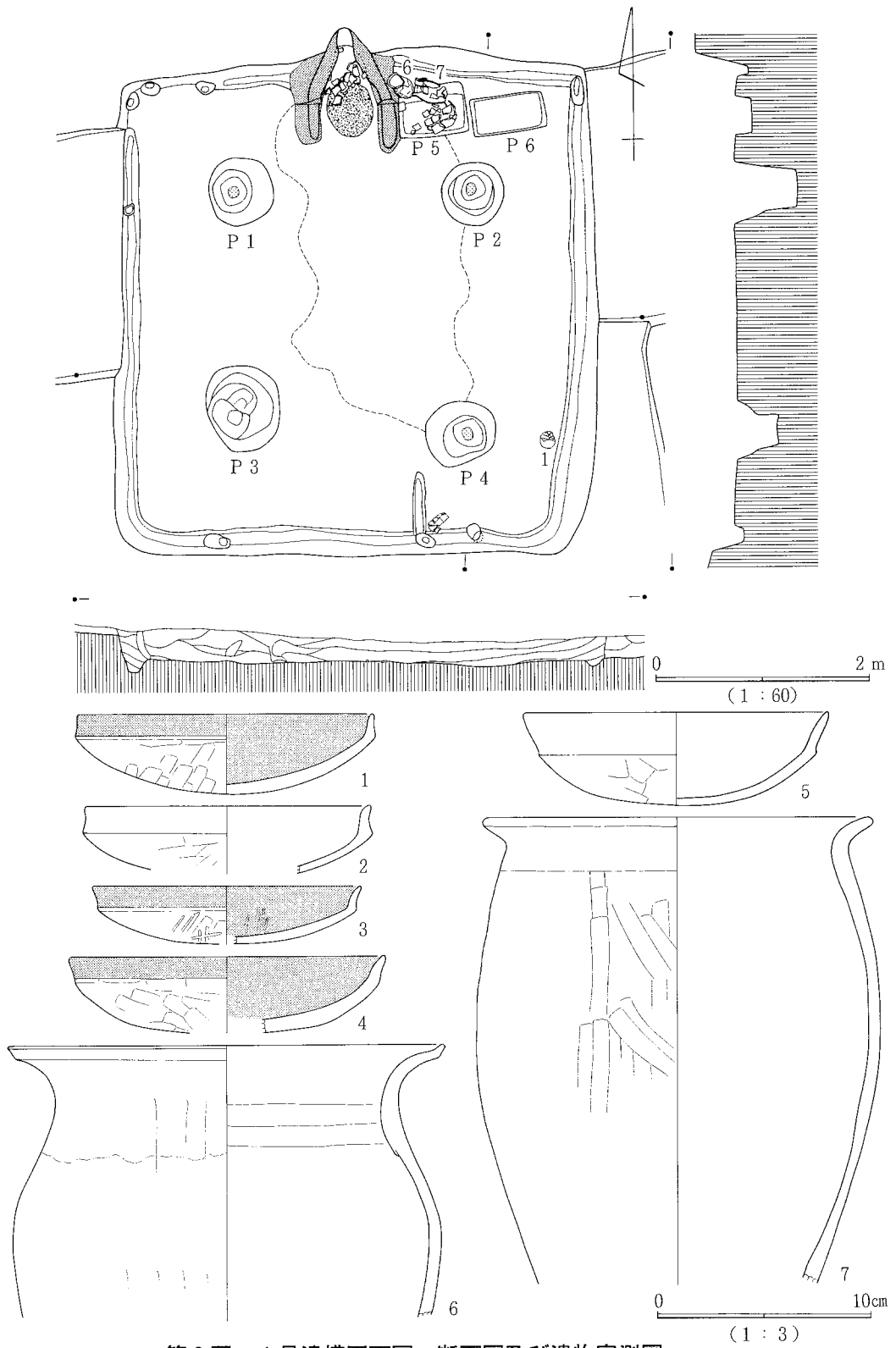
遺物の出土状況は、カマド右脇のP6上から甕6・7が横倒しになった状態で検出され、また南辺中央覆土中からは、杯片が数点検出された。そして、東辺南側壁際床面上からは杯1が検出された。時期は遺物から6世紀後葉から7世紀初頭と考えられる。（小川浩一）



第1図 土宇下原遺跡B地点位置図



第2図 土宇下原遺跡B地点トレンチ配置図



第3図 1号遺構平面図、断面図及び遺物実測図

あね さき ひがしほら
14. 姉崎東原遺跡C地点

事業名 宅地造成（姉崎東原地区）に伴う埋蔵文化財調査

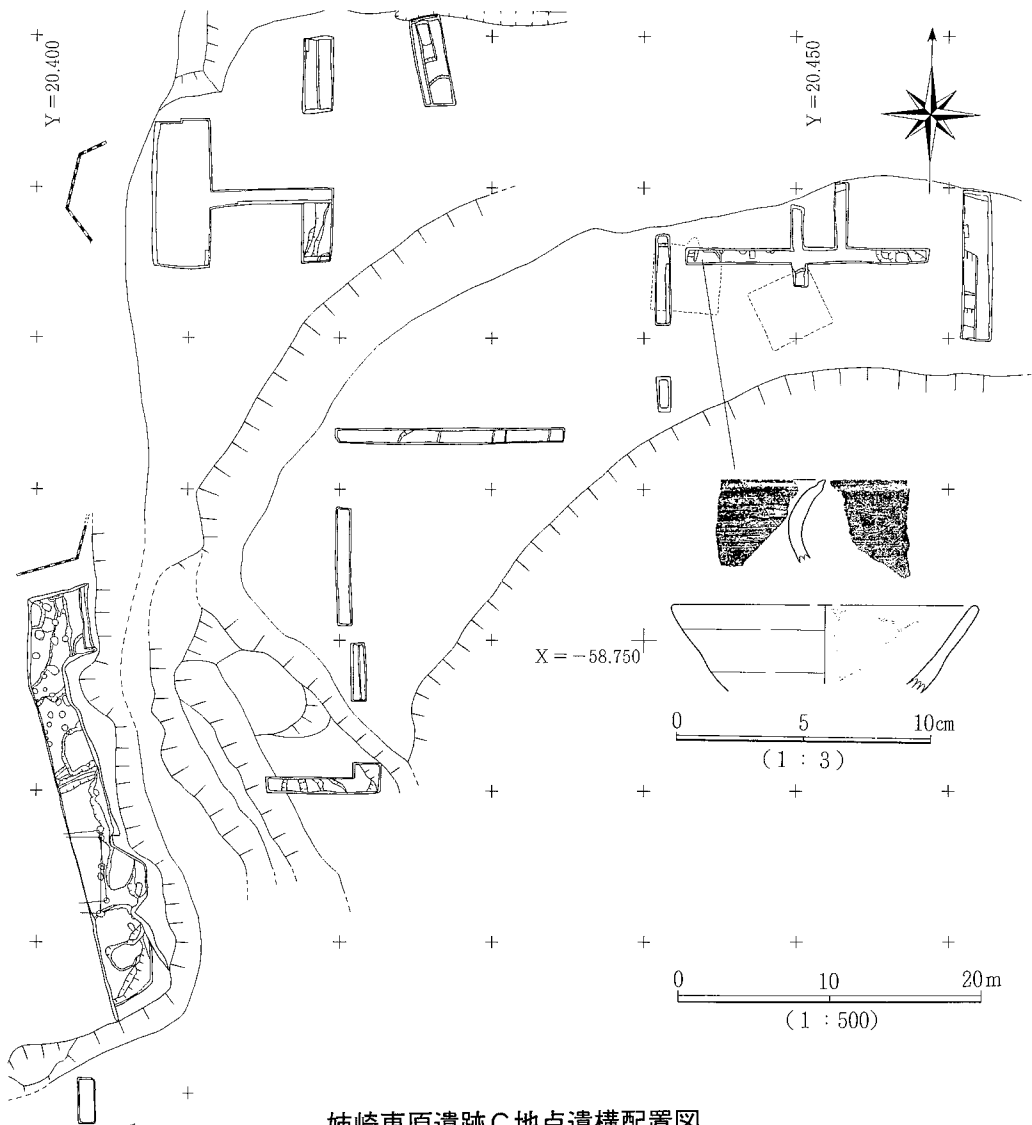
所在地 市原市姉崎2,720-3地先 他

調査期間 平成6年2月3日～平成6年3月22日

調査面積 5,000㎡のうち500㎡（確認・一部本調査）

調査概要 円墳1基・弥生時代住居跡1軒・平安時代住居跡2軒・時期不明掘立柱建物跡2棟などが調査されている。報告書が既に刊行されているので、詳細は下記を参照願いたい。

『市原市姉崎東原遺跡C地点』(財)市原市文化財センター調査報告書第54集（櫻井敦史）



姉崎東原遺跡C地点遺構配置図

IV 平成5年度 受贈図書一覧

書名	寄贈者	受入日
埋蔵文化財発掘調査報告書第40集	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター	5.4.1
(財)瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第1集	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター	〃
三重県埋蔵文化財調査報告92-1・99-1・101-7・106	三重県埋蔵文化財センター	〃
芝山町史資料集1 原始・古代編(第1分冊・第2分冊)	芝山町教育委員会	〃
神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告21	神奈川県立埋蔵文化財センター	〃
清川村宮ヶ瀬遺跡群調査の概要	同上	〃
泉佐野市埋蔵文化財調査概要第4～8号	泉佐野市教育委員会	〃
泉佐野市埋蔵文化財発掘調査概要 平成3年度	同上	〃
泉佐野市埋蔵文化財発掘調査報告20～25・28～30	同上	〃
大西遺跡	同上	〃
開館5周年記念シンポジウム 戦国大名大友宗麟 その実像に迫る	大分市歴史資料館	〃
開館5周年記念特別展 覇権をめざした英雄たち 大友宗麟とその時代	同上	〃
調布市埋蔵文化財調査報告23・27	調布市郷土博物館、調布市遺跡調査会	〃
東京都調布市埋蔵文化財年報平成元年度・平成2年度	同上	〃
鳩山町埋蔵文化財調査報告第14集	鳩山町教育委員会	〃
旧高山家住宅	浜松市博物館	〃
博物館資料集2 米づくりの農具	同上	〃
浜松市博物館館報V	同上	〃
古代史発掘 1978-82年新遺跡カタログ	近藤 敏	5.4.5
千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報 昭和47・48年	同上	〃
市原市内仏像彫刻所在調査報告書南部編	市原市教育委員会	〃
平成4年度市原市内遺跡発掘調査報告	同上	〃
埋蔵文化財調査報告書第41・42集	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター	5.4.7
京都府埋蔵文化財情報第47号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	〃
クラシック・ウォッチングいんざい	印西町教育委員会	〃
佐原市内遺跡発掘調査概報VII	佐原市教育委員会	〃
わたしたちの市原市	市原市教育委員会	〃
私たちの市原市	同上	〃
企画展図録 縄文土器・それぞれの顔	調布市郷土博物館	〃
湯之奥金山遺跡の研究	帝京大学山梨文化財研究所	〃
土浦市立博物館紀要第4号	土浦市立博物館	〃
平成4年度東金市内遺跡発掘調査報告書	東金市教育委員会	〃
柏市埋蔵文化財調査報告書21・22	柏市教育委員会	〃
平成4年度市内遺跡発掘調査報告書	同上	〃
助ヶ平I・II遺跡・早瀬遺跡	浜松市博物館	〃
正言寺平遺跡発掘調査報告書	同上	〃
府中市郷土の森年報第6号 平成3年度	府中市郷土の森博物館	〃
駒方津室迫遺跡の構造論的研究	別府大学付属博物館	〃
財団法人印旛郡市文化財センター第1回遺跡発表会発表要旨	(財)印旛郡市文化財センター	5.4.8
松山市文化財調査報告書31・32	(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	〃
平成4年度芝山町内遺跡発掘調査報告書	芝山町教育委員会	〃
越野遺跡発掘調査報告書	八王子市教育委員会	〃
神明山遺跡発掘調査報告書	富津市教育委員会	〃
東冠遺跡発掘調査報告書	同上	〃
平成4年度富津市内遺跡発掘調査報告書	同上	〃

書名	寄贈者	受入日
特別展 小田原城とその城下その歴史と文化を掘る	小田原市教育委員会	5. 4. 12
平成4年度成田市内遺跡発掘調査報告書	成田市教育委員会	〃
早川城Ⅰ・Ⅱ	早川城跡調査会	〃
長野市の埋蔵文化財第47・48・50集	長野市埋蔵文化財センター	5. 4. 15
各務原市資料調査報告書第16号	各務原市歴史民俗資料館	5. 4. 16
遺跡探査No5 1993.3.	奈良国立文化財研究所	〃
比丘尼橋遺跡B地点調査報告書	比丘尼橋遺跡調査団・練馬区教育委員会	〃
市内遺跡発掘調査概要報告書Ⅱ	一宮市博物館	5. 4. 20
国分寺市文化財調査報告第31・33・34・36集	国分寺市教育委員会	〃
国立歴史民俗博物館研究報告第50集	国立歴史民俗博物館	〃
神奈川県埋蔵文化財調査報告35	神奈川県教育庁生涯学習部	〃
平成4年度船橋市市内遺跡発掘調査報告書	船橋市教育委員会	〃
平成4年度君津市内遺跡発掘調査報告書	君津市教育委員会	5. 4. 21
立場遺跡発掘調査報告書	船橋市教育委員会	〃
千束台遺跡群確認調査報告書Ⅲ	木更津市教育委員会	〃
大畑台遺跡群確認調査報告書Ⅱ	同上	〃
木更津市内遺跡発掘調査報告書 花山遺跡	同上	〃
（勸）瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第2・3・5集	（勸）瀬戸市埋蔵文化財センター	5. 4. 23
鎌ヶ谷市埋蔵文化財調査報告第8集	鎌ヶ谷市教育委員会	〃
及川柳流遺跡・及川宮ノ下遺跡	国道412号線遺跡発掘調査団	〃
考古学における計量分析 計量考古学への道（Ⅱ）	帝塚山考古学研究所	〃
第6回考古学におけるパーソナルコンピュータ利用の現状	同上	〃
美沢11遺跡	苫小牧市埋蔵文化財調査センター	〃
流山市埋蔵文化財調査報告Vol.17・18	流山市教育委員会	〃
のじぎく文化財だより第13号	（勸）のじぎく文化財保護研究財団	5. 4. 26
向日市埋蔵文化財調査報告書第36集	（勸）向日市埋蔵文化財センター	〃
平成3年度（勸）向日市埋蔵文化財センター年報	同上	〃
宇治市埋蔵文化財発掘調査概報第20集	宇治市教育委員会	〃
平成4年度 企画展西相模の古墳	秦野市立桜土手古墳展示館	〃
弥生文化博物館平成5年春季特別展 みちのく弥生文化	大阪府立弥生文化博物館	〃
淡河中山遺跡発掘調査報告書Ⅰ	淡神文化財協会	〃
淡河萩原遺跡発掘調査報告書Ⅰ・Ⅱ	同上	〃
高橋家文書「御用留」第一集	茂原市立図書館	〃
四街道市の文化財第19号	四街道市教育委員会	5. 4. 28
四街道市内遺跡発掘調査報告書1993	同上	〃
埼玉県立埋蔵文化財センター年報2 平成3年度	埼玉県立埋蔵文化財センター	5. 5. 6
春季特別展 湖と海の王	滋賀県立安土城考古博物館	〃
博古研究第5号	博古研究会	〃
阿蘇中学校校東側遺跡Ⅲ	八千代市遺跡調査会	〃
千葉県八千代市内遺跡発掘調査報告平成4年度	八千代市教育委員会	〃
宇麻具多第5号	木更津古代史の会	〃
埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書平成4年度	千葉市教育委員会	5. 5. 11
古代第95号	早稲田大学考古学会	〃
袖ヶ浦郷土博物館10年のあゆみ	袖ヶ浦市郷土博物館	〃
筑波大学先史学・考古学研究第3号	筑波大学歴史・人類学系	〃
（勸）長生郡市文化財センター調査報告第8・12～14集	（勸）長生郡市文化財センター	5. 5. 13
長生郡市文化財センター年報No6	同上	〃

書名	寄贈者	受入日
平成4年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書	袖ヶ浦市教育委員会	5. 5. 13
大寺山洞穴測量調査概報	千葉大学文学部考古学研究室	5. 5. 14
平成4年度企画展 織りの流れを探る	一宮市博物館	5. 5. 17
鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅷ 平成4年度	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	〃
平成3年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	大阪市教育委員会	〃
平成4年度野田市内遺跡発掘調査報告	野田市教育委員会	〃
野田市埋蔵文化財調査報告書第6冊	同上	〃
武蔵関北遺跡調査報告書	武蔵関北遺跡調査団・練馬区教育委員会	5. 5. 18
(財)山武郡市文化財センター発掘調査報告書第11～13集	(財)山武郡市文化財センター	5. 5. 20
財団法人山武郡市文化財センター年報No.8 平成3年度	同上	〃
埋蔵文化財発掘調査労働安全のしるべ	(財)千葉県文化財センター	〃
南河内先史学9	高山歴史学研究所	〃
歴史学10	同上	〃
平成4年度松戸市内遺跡発掘調査概報	松戸市教育委員会	〃
帝京大学山梨文化財研究所研究報告第4集	帝京大学山梨文化財研究所	〃
(財)瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要第1輯	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター	5. 5. 21
(財)瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第4集	同上	〃
根岸遺跡 平成4年度範囲確認発掘調査概報	いわき市教育委員会	〃
群馬町埋蔵文化財調査報告第35・36集	群馬町教育委員会	5. 5. 24
広島大学文学部考古学研究室報告第1冊	広島大学文学部考古学研究室	〃
ガイドブック セーラムの歴史	大田区立郷土博物館	〃
ガイドブック 大田区海苔物語	同上	〃
ガイドブック 大田区古墳	同上	〃
大田区立郷土博物館紀要第3号	同上	〃
柏市埋蔵文化財調査報告書23	柏市教育委員会	〃
武蔵大学人文学会雑誌第24巻第4号	武蔵大学人文学会	〃
かながわの考古学第3集	神奈川県立埋蔵文化財センター	5. 5. 25
名古屋博物館研究紀要第16巻	名古屋博物館	〃
金沢大学考古学紀要第20号	金沢大学文学部考古学研究室	5. 5. 26
多賀城市文化財調査報告書第33・34集	多賀城市埋蔵文化財調査センター	〃
水崎遺跡	八王子市教育委員会	〃
中央大学多摩校地遺跡発掘調査報告書	同上	〃
裏宿遺跡群 I	同上	〃
我孫子市埋蔵文化財小報第9集	我孫子市教育委員会	5. 5. 27
松本市文化財調査報告99～103・110・111	松本市教育委員会	〃
松本城三の丸跡	同上	〃
国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報平成4年度	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	5. 5. 31
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要 I	同上	〃
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報平成4年度	同上	〃
川津一ノ又遺跡	同上	〃
尾崎西遺跡	同上	〃
松山市文化財調査報告書33	(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	〃
賀来中学校遺跡	大分市教育委員会	〃
大分市埋蔵文化財調査年報2	同上	〃
長谷横穴墓群	同上	〃
東京大学文学部考古学研究室研究紀要第11号	東京大学文学部考古学研究室	〃
のじぎく文化財だより第14号	(財)のじぎく文化財保護研究財団	5. 6. 1

書名	寄贈者	受入日
徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第1集	(財)徳島県埋蔵文化財センター	5.6.1
和光市埋蔵文化財調査報告書第9集	鈴木敏弘	"
研究紀要第2号	港区立港郷土資料館	5.6.2
國學院大學考古学資料館紀要第9輯	國學院大學考古学資料館	"
多摩ニュータウンの遺跡と遺物	(財)東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター	5.6.4
京都大学文学部博物館図録第6冊	京都大学文学部博物館	"
小田原市文化財調査報告書第40・42・43集	小田原市教育委員会	"
雪野山古墳Ⅲ第4次発掘調査概報	大阪大学文学部	"
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書第179~182・184・185・190・191・193~195集	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	5.6.10
松山市文化財調査報告書35	(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	"
宇宿小学校遺跡	熊本大学文学部考古学研究室	"
国立歴史民俗博物館研究報告第48・49集	国立歴史民俗博物館	"
大阪市立博物館報No.32	大阪市立博物館	"
國學院大學文学部考古学実習報告第22・23集	國學院大學文学部考古学研究室	"
山武考古学研究所年報No.10	山武考古学研究所	5.6.11
第4回収蔵展 小山の遺跡2 10年間の発掘成果	小山市立博物館	5.6.14
西隆寺発掘調査報告書	奈良市教育委員会	"
奈良市埋蔵文化財調査センター紀要1992	同上	"
奈良市埋蔵文化財調査概要報告書平成4年度	同上	"
平城京東市跡推定地の調査X I 第13次発掘調査概報	同上	"
尼崎市文化財調査報告第24集	尼崎市教育委員会	"
三重県埋蔵文化財調査報告99-3・104・107・109・110	三重県埋蔵文化財センター	5.6.15
平成4年度三重県埋蔵文化財センター年報4	同上	"
埋蔵文化財発掘調査概報V	同上	"
永福寺跡	鎌倉市教育委員会	5.6.16
鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9	同上	"
平成4年度沼南町内遺跡発掘調査報告書	沼南町教育委員会	"
小丸山(中山中)遺跡発掘調査報告	岡山市教育委員会	5.6.17
国立歴史民俗博物館研究報告第47集	国立歴史民俗博物館	"
京都府遺跡調査概報第52・53冊	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	5.6.18
大阪府下埋蔵文化財研究会(第28回)資料	(財)大阪文化財センター	"
図録「大慈恩寺の宝物」	成田山靈光館	"
綾瀬市埋蔵文化財調査報告3	綾瀬市教育委員会	5.6.22
岩手県立博物館総合案内	田中茂良	"
京都府遺跡調査報告書第18冊	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	5.6.23
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第145・147集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	"
(財)勝田市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第8集	(財)勝田市文化・スポーツ振興公社	5.6.28
常設展「船橋のあゆみ」	船橋市郷土資料館	"
船橋市郷土資料館第62回展示資料観覧のてびき 船橋の産業	同上	"
第37・38郷土史講座講義録 船橋周辺の講	同上	"
第39回郷土史講座講義録 すまいとくらしの文化史	同上	"
平成4年度船橋市郷土資料館年報	同上	"
縄文中期の土器 船橋市内出土の土器	同上	"
大慈恩寺遺跡	大栄町教育委員会	"
八街市埋蔵文化財調査報告書第1集	八街市教育委員会	"
蔵屋敷遺跡発掘調査報告書	玉川文化財研究所	5.6.29
いわき市教育文化事業団研究紀要第4号	(財)いわき市教育文化事業団	5.6.30

書名	寄贈者	受入日
いわき市教育文化事業団年報3	(財)いわき市教育文化事業団	5.6.30
いわき市埋蔵文化財調査報告第23・32冊	同上	〃
のじごく文化財だより第15号	(財)のじごく文化財保護研究財団	〃
赤松町遺跡発掘調査報告書	同上	〃
落川・一の宮遺跡調査略報Ⅰ 1991・92年の調査	落川・一の宮遺跡(日野3・2・7号線)調査会	〃
(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第80～84集	(財)北海道埋蔵文化財センター	5.7.6
調査年報5 平成4年度	同上	〃
高槻市文化財調査概要ⅩⅧ・ⅩⅨ	高槻市教育委員会	〃
高槻市文化財調査報告書第16冊	同上	〃
高槻市文化財年報平成3年度	同上	〃
上田部遺跡	同上	〃
塚脇古墳群	同上	〃
嶋上郡衙跡	同上	〃
弁天山古墳群	同上	〃
八王子市埋蔵文化財年報平成4年度	八王子市教育委員会	〃
平塚遺跡	同上	〃
美濃市文化財調査報告第2～6号	美濃市教育委員会	〃
高松市埋蔵文化財調査報告第21集	高松市教育委員会	5.7.7
讃岐国山田郡田図の世界	同上	〃
三田市旧金剛寺とその周辺	六甲山麓遺跡調査会	〃
鳥取県教育文化財団調査報告書30～33	(財)鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター	5.7.9
京都府埋蔵文化財情報第48号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	5.7.12
湖西市文化財調査報告第29～31集	湖西市教育委員会	〃
平成4年度市川市内遺跡発掘調査報告	市川市教育委員会	〃
(財)長生郡市文化財センター調査報告第15集	(財)長生郡市文化財センター	5.7.13
明野村文化財調査報告7	明野村教育委員会	5.7.14
大宮の教育史調査概報(Ⅳ)	大宮市立博物館	5.7.15
大宮市立博物館研究紀要第5号	同上	〃
長岡京市文化財調査報告書第31冊	長岡京市教育委員会	〃
平成3年度市立市川考古博物館年報第20号	市立市川考古博物館	5.7.16
千葉御茶屋御殿跡第5次調査概報	千葉市教育委員会	〃
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第148集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	5.7.19
No.342遺跡内やぐら	鎌倉考古学研究所	〃
公方屋敷跡やぐら	同上	〃
広島県中世城館遺跡総合調査報告書第1集	広島県教育委員会	〃
箸尾遺跡を掘る	寺沢 薫	〃
世田谷区史料叢書第八巻	世田谷区立郷土資料館	〃
草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅰ	草戸千軒町遺跡調査研究所	〃
第4回「考古学と中世史研究」シンポジウム 中世資料論の現在と課題	帝京大学山梨文化財研究所	〃
向日市史上巻・下巻・史料編	(財)向日市埋蔵文化財センター	5.7.20
古曾志遺跡群発掘調査報告書	島根県教育庁文化課	〃
石台遺跡Ⅱ	同上	〃
八色谷古墳群	同上	〃
板屋Ⅱ遺跡	同上	〃
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ・ⅩⅠ	同上	〃
国士舘大学文学部考古学研究室報告乙種第8・9冊	国士舘大学文学部考古学研究室	5.7.21
岐阜県文化財保護センター調査報告書第5～10集	(財)岐阜県文化財保護センター	5.7.22

書名	寄贈者	受入日
国道41号線改良工事に伴う発掘調査報告書	(財)岐阜県文化財保護センター	5.7.22
研究連絡誌第37号	(財)千葉県文化財センター	"
東邦考古第17号	東邦考古学研究会	"
古代学研究所研究紀要第3輯	(財)古代学協会	5.7.23
千葉県史研究創刊号	(財)千葉県史料研究財団	"
浦和市遺跡調査会報告書第161・164・169・171・172集	浦和市遺跡調査会	"
浦和市内遺跡発掘調査報告書第20集	同上	"
千葉県立中央博物館研究報告人文科学第2巻第2号・第3巻第1号	千葉県立中央博物館	"
奈良国立文化財研究所40周年記念図録 四十年の春秋	奈良国立文化財研究所	"
奈良国立文化財研究所年報1992	同上	"
紀要第1号	滋賀県立安土城考古博物館	5.7.26
平成4年度年報	同上	"
雲井遺跡第1次発掘調査報告書	神戸市教育委員会	"
押部遺跡	同上	"
昭和62年度・平成元年度・平成2年度神戸市埋蔵文化財年報	同上	"
神戸市埋蔵文化財センター常設展示案内	同上	"
発掘調査速報展 地下に眠る神戸の歴史展IX	同上	"
平成元・3年度遺跡現地説明会資料	同上	"
本山遺跡第12次調査の概要	同上	"
第13回企画展 開かれた古代への扉	土浦市立博物館	"
季刊考古学第44号	雄山閣出版(株)	"
落越遺跡 I・II	落越遺跡調査団	"
のじぎく文化財だより第16号	(財)のじぎく文化財保護研究財団	5.7.28
平成5年夏季企画展 第8回泉州の遺跡須恵器の始まりをさぐる	(財)大阪府埋蔵文化財協会	"
亀の子山遺跡	車崎正彦	"
房総史学第31・32・33号	千葉県立千葉南高等学校	"
国立歴史民俗博物館博物館資料調査報告書4	国立歴史民俗博物館	5.7.29
京都市内遺跡試掘調査概報平成4年度	(財)京都市埋蔵文化財研究所	5.7.30
京都市内遺跡立会調査概報平成4年度	同上	"
栗栖野瓦窯跡発掘調査概報平成4年度	同上	"
平安京跡発掘調査概報平成4年度	同上	"
蒜山研究所研究報告第18号	岡山理科大学図書館	"
開館10周年記念展 終末期古墳の世界	北九州市立考古博物館	"
北九州市立考古博物館年報平成4年度	同上	"
南武蔵の古墳	(財)府中文化振興財団府中市郷土の森	5.8.2
高槻市文化財調査報告書第17冊	高槻市教育委員会	"
泉南市文化財調査報告書第24集	泉南市教育委員会	"
そでがうらの文化財	袖ヶ浦市教育委員会	"
袖ヶ浦市史研究創刊号	同上	"
特別展「動け!おもちゃ」図録	袖ヶ浦市郷土博物館	"
玉村町埋蔵文化財発掘調査報告書第6~9集	山武考古学研究所	5.8.3
古海松塚古墳群平成3・4年度発掘調査概報	同上	"
山名戸矢遺跡	同上	"
昭和町 I 遺跡	同上	"
二本松東山遺跡発掘調査報告書	同上	"
日立市文化財調査報告第32・33集	同上	"
萩原団地遺跡	同上	"

書名	寄贈者	受入日
紀要第6号	(財)滋賀県文化財保護協会	5.8.4
第4回埋蔵文化財調査研究会シンポジウム「畿内から近江の古代-木原遺跡の評価をめぐって」発表要旨	同上	〃
平成4年度調査埋蔵文化財展 レトロ・レトロの展覧会93	同上	〃
滝沢 塩野西遺跡群発掘調査概要報告書	御代田町教育委員会	〃
飛鳥・藤原宮発掘調査概報23	奈良国立文化財研究所	5.8.5
いわき市埋蔵文化財調査報告第33冊	(財)いわき市教育文化事業団	5.8.6
佐賀県文化財調査報告書第110集	佐賀県教育委員会	〃
三重産業振興センター埋蔵文化財発掘調査概報	津市教育委員会	5.8.9
津市埋蔵文化財調査報告23	同上	〃
遺跡探査No6 1993.6.	奈良国立文化財研究所	〃
茨城県教育財団文化財調査報告第78～83集	(財)茨城県教育財団	5.8.10
研究ノート2号	同上	〃
年報12 平成4年度	同上	〃
西ヶ原遺跡群	東京都北区教育委員会	5.8.12
北区埋蔵文化財調査報告第11集	同上	〃
史叢第50号	日本大学史学会	〃
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第143集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	5.8.17
平成4年度瀬戸市埋蔵文化財センター年報	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター	5.8.18
(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書14	(財)長野県埋蔵文化財センター	5.8.19
徳島県埋蔵文化財センター年報Vol.4 1992年度	(財)徳島県埋蔵文化財センター	〃
矢野銅鐸	同上	〃
愛知県陶磁資料館研究紀要12	愛知県陶磁資料館	5.8.23
本多コレクション展	同上	〃
久留里城址資料館年報14 平成4年度	君津市立久留里城址資料館	〃
横須賀市文化財調査報告書第27集	横須賀市教育委員会	5.8.27
大木根東遺跡	同上	〃
東平賀貝塚(8次)	松戸市遺跡調査会	〃
千葉県御茶屋御殿跡第6次調査現地説明会資料	千葉市教育委員会	〃
福岡市埋蔵文化財センター年報第12号 平成4年度	福岡市埋蔵文化財センター	〃
新免古墳群第3号墳	六甲山麓遺跡調査会	〃
岡田遺跡発掘調査報告書	玉川文化財研究所	5.8.31
のじく文化財だより第17号	(財)のじく文化財保護研究財団	5.9.1
長野県埋蔵文化財センター年報9 1992	(財)長野県埋蔵文化財センター	5.9.2
福知山市文化財調査報告書第21・22集	福知山市教育委員会	〃
研究紀要第15号	埼玉県立歴史資料館	5.9.3
資料館ガイドブックNo9 埼玉の窯業	同上	〃
歴史資料館と菅谷館跡	同上	〃
(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第63・70・72～74輯	(財)大阪府埋蔵文化財協会	5.9.6
岩手県文化財調査報告書第93集	岩手県教育委員会	〃
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第146集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	5.9.9
史跡若宮大路遺跡発掘調査報告書Ⅶ	鎌倉考古学研究所	〃
台山藤源治遺跡第三次調査報告	同上	〃
第3回鎌倉市遺跡調査・研究発表会発表要旨	同上	〃
成田市の文化財第24集 埋蔵文化財発掘調査報告書	成田市教育委員会	〃
成田市下金山城跡発掘調査報告書	同上	〃
調査研究報告第6号	埼玉県立さきたま資料館	5.9.13
歴史セミナー特別講演会講演会資料 まぼろしの上総国府をもとめて	市原市教育委員会	〃

書名	寄贈者	受入日
瓦塔・瓦堂解体修復報告書	村井 実	5.9.13
福井県埋蔵文化財調査センター年報7 平成3年度	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	"
四日市市遺跡調査会文化財調査報告書X	四日市市遺跡調査会	5.9.16
四日市市文化財保護年報3 平成3年度	四日市市教育委員会	"
稲ヶ原遺跡A地点発掘調査報告	㈫横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター	5.9.17
牛ヶ谷遺跡 華蔵台南遺跡	同 上	"
坂下谷遺跡発掘調査報告	同 上	"
調査研究集録第9冊	同 上	"
財団法人横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター年報3	財団法人横浜市ふるさと歴史財団	"
柏市史調査研究報告Ⅲ	柏市教育委員会	"
長岡京市埋蔵文化財センター年報平成3年度	㈫長岡京市埋蔵文化財センター	5.9.20
能越自動車道関係埋蔵文化財包蔵地調査報告	㈫富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所	5.9.22
埋蔵文化財年報(4) 平成4年度	同 上	"
多摩の遺跡展 発掘物語	㈫東京都教育文化財団 東京都埋蔵文化財センター	5.9.27
九州歴史資料館研究論集18	九州歴史資料館	"
九州歴史資料館年報平成4年度	同 上	"
内園峠遺跡	深川市教育委員会	"
松平出羽守抱屋敷 初台遺跡1993	初台遺跡調査団	5.9.28
春日町遺跡発掘調査概報	文京区遺跡調査会	"
文京区埋蔵文化財調査報告書第1～3集	文京区教育委員会	"
奈良市埋蔵文化財調査センター紀要1992	奈良市教育委員会	"
みちのく弥生文化	大阪府立弥生文化博物館	5.9.30
豊橋市埋蔵文化財調査報告書第15～17集	豊橋市埋蔵文化財調査事務所	5.10.1
のじぎく文化財だより第18号	㈫のじぎく文化財保護研究財団	5.10.5
10年のあゆみ	㈫印旛郡市文化財センター	"
遺跡から見た印旛の歴史	同 上	"
京都府埋蔵文化財情報第49号	㈫京都府埋蔵文化財調査研究センター	"
横須賀市博物館研究報告(人文科学)第37号	横須賀市自然人文博物館	"
横須賀市博物館資料集第17号	同 上	"
横須賀市博物館報第40号	同 上	"
考古資料図録Ⅷ	同 上	"
第28回企画展 みんなの学校 学校の宝物はこれだ	小山市立博物館	"
第28回企画展 みんなの学校 学校の宝物はこれだ 唐澤富太郎コレクション	同 上	"
古代第96号	早稲田大学考古学会	"
第33回特別展 浄土信仰の美	長野市立博物館	"
長野市立博物館収蔵資料科目録 歴史1	同 上	"
愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第33・43・45～47集	㈫愛知県埋蔵文化財センター	5.10.7
愛知県埋蔵文化財情報8 平成3年度	同 上	"
財団法人愛知県埋蔵文化財センター年報平成4年度	同 上	"
研究紀要第7号	㈫北九州市教育文化事業団	"
北九州市埋蔵文化財調査報告書第112・113・114・117～119・122・124・129・131～140集	同 上	"
埋蔵文化財調査室年報9	同 上	"
小山市立博物館報第10号	小山市立博物館	"
大分市歴史資料館年報1992	大分市歴史資料館	"
府内及び大友氏関係遺跡総合調査研究年報 I	同 上	"
㈫印旛郡市文化財センター年報8	㈫印旛郡市文化財センター	5.10.12
㈫印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第32・58・64・65・68・72・73集	同 上	"

書名	寄贈者	受入日
山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第57・74・80・83・85集	山梨県埋蔵文化財センター	5.10.12
年報9 平成4年度	同上	〃
考古学その見方と解釈 下	(株)筑摩書房	5.10.14
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第155集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	〃
研究連絡誌第38号	(財)千葉県文化財センター	〃
歴史セミナー歴史講座 講演会資料 素顔いちほら歴史探訪	市原市教育委員会	〃
第17回特別展お伊勢参り 江戸時代の庶民の旅	大宮市立博物館	〃
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第152集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	5.10.15
シンポジウム2 東日本における古墳出現過程の再検討	大村 直	5.10.18
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第149集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	5.10.19
佐鳴湖西岸遺跡群	(財)浜松市文化協会	〃
香取の海 その歴史と文化	千葉県立中央博物館	〃
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第151集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	5.10.20
房総考古学ライブラリー7 歴史時代(1)	(財)千葉県文化財センター	5.10.22
貝塚博物館紀要第20号	千葉市立加曽利貝塚博物館	〃
第1回企画展図録 前方後方墳の世界	栃木県立なす風土記の丘資料館	〃
研究連絡誌第37・38号	(財)千葉県文化財センター	5.10.25
熊ノ台西遺跡	(財)千葉市文化財調査協会	〃
砂子遺跡(D区)	同上	〃
財団法人千葉市文化財調査協会年報4・5	同上	〃
千葉市枯木台遺跡	同上	〃
千葉市狐塚西遺跡	同上	〃
千葉市砂子遺跡(C区)	同上	〃
千葉市若郷遺跡	同上	〃
千葉市小中台遺跡	同上	〃
千葉市上深見沢遺跡	同上	〃
千葉市新田遺跡	同上	〃
千葉市神門遺跡	同上	〃
千葉市長堀東遺跡	同上	〃
千葉市文化財調査報告書第10集	同上	〃
千葉市芳賀輪遺跡 平成2年度調査報告書	同上	〃
千葉市立山城跡	同上	〃
千葉中央ゴルフ場遺跡群発掘調査報告書	同上	〃
土気南遺跡群Ⅰ	同上	〃
土気南遺跡群Ⅱ 弥三郎第2遺跡	同上	〃
平川町向エ遺跡第二次調査発掘調査報告書	同上	〃
芳賀輪遺跡 太田アラク遺跡	同上	〃
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第150・156集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	5.10.26
展示図録No.10 特別展里見氏の城と歴史	館山市立博物館	〃
番塚古墳	九州大学文学部考古学研究室	〃
港郷土資料館館報11 平成4年度版	港区立港郷土資料館	〃
大阪府立弥生文化博物館図録7 弥生人の見た楽浪文化	大阪府立弥生文化博物館	〃
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第154集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	5.10.28
鉏路市北斗遺跡Ⅲ 史跡北斗遺跡保存整備事業に伴う発掘調査報告書	鉏路市埋蔵文化財調査センター	5.10.29
鉏路市北斗遺跡第1地点調査報告書	同上	〃
特別展 縄文土器の世界	松戸市立博物館	〃
のじぎく文化財だより第19号	(財)のじぎく文化財保護研究財団	5.11.4

書名	寄贈者	受入日
遺跡に学ぶ第1・2号	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	5.11.4
広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第108・110～113・116集	(財)広島県埋蔵文化財調査センター	"
年報Ⅷ 平成3年度	同上	"
企画展図録「農家の食」	世田谷区教育委員会	"
倉敷市埋蔵文化財調査年報2 1992年度	倉敷市教育委員会	"
中野区立歴史民俗資料館研究紀要 I	中野区立歴史民俗資料館	"
中野城山居館跡発掘調査報告書	同上	"
静岡県考古学会シンポジウム93 古墳時代の集落	大村 直	5.11.8
東海の中世窯	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター	5.11.11
佐助ヶ谷遺跡(鎌倉税務署用地)発掘調査報告書 第1分冊・第2分冊	鎌倉考古学研究所	"
三重県埋蔵文化財センター研究紀要第2号	三重県埋蔵文化財センター	"
三重県埋蔵文化財調査報告108-1・108-5	同上	"
四日市市遺跡調査会文化財調査報告書XI	四日市市遺跡調査会	"
秋季特別展 天下布武へ	滋賀県立安土城考古博物館	"
特別展 文晁とその門人による模写絵	世田谷区立郷土資料館	"
仙台市文化財調査報告書第174・176集	仙台市教育委員会	"
荻浦の文化財	前原市教育委員会	"
前原市文化財調査報告書第44～46・48～50集	同上	"
友の会10周年記念誌	大田区立郷土博物館	"
遺跡探査No.7 1993.9	奈良国立文化財研究所	"
狭間遺跡発掘調査報告書	八王子市教育委員会	"
平塚遺跡 埋蔵文化財整理室跡地地区	同上	"
明治大学考古学博物館館報No.8	明治大学考古学博物館	"
瓦塔・瓦堂解体修復報告書	埼玉県立歴史資料館	5.11.12
縄文土器の世界	富山県埋蔵文化財センター	"
(財)君津郡市文化財センター発掘調査報告書第61・77・80～82・85・92集	(財)君津郡市文化財センター	5.11.16
君津郡市文化財センター年報No.10 平成3年度	同上	"
研究紀要第9号	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	"
埼玉県埋蔵文化財調査事業団年報12・13	同上	"
埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第122～131集	同上	"
国立歴史民俗博物館研究報告第51集	国立歴史民俗博物館	"
民具に見る町人のくらし	調布市郷土博物館	5.11.18
長原遺跡発掘調査報告V	(財)大阪市文化財協会	5.11.19
第11回近畿地方埋蔵文化財研究会資料	(財)大阪文化財センター	"
いきいきいちほら秀景30	市原市教育委員会	5.11.22
ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XIX-9	(財)滋賀県文化財保護協会	5.11.24
錦織・南滋賀遺跡発掘調査概要Ⅶ	同上	"
県営かんがい排水事業関連遺跡発掘調査報告書VI-1・Ⅷ-3・IX-2・IX-3	同上	"
高田館遺跡	同上	"
高野・辻遺跡発掘調査報告書Ⅱ	同上	"
瀬田川浚渫工事他関連埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ	同上	"
南滋賀遺跡	同上	"
10年のあゆみ	(財)長岡京市埋蔵文化財センター	"
今小路西遺跡(御成小学校内)第5次発掘調査概報	鎌倉市教育委員会	"
今小路西遺跡発掘調査報告書	同上	"
若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書	同上	"
下森鹿島遺跡発掘調査報告書 先土器時代編	玉川文化財研究所	"

書名	寄贈者	受入日
平成5年度特別展 古代の島根と四国地方	島根県立八雲立つ風土記の丘	5.11.24
浦和市遺跡調査会報告書第160・162・165・170・173集	浦和市遺跡調査会	5.11.26
小杉流通業務団地内遺跡群 第10・11次発掘調査概要	富山県埋蔵文化財センター	〃
富山県総合運動公園内遺跡発掘調査報告(3)	同上	〃
富山県埋蔵文化財センター年報平成4年度	同上	〃
北陸自動車道遺跡調査報告 朝日町編7	同上	〃
京都府遺跡調査概報第54冊	㈱京都府埋蔵文化財調査研究センター	5.11.29
今小路西遺跡	鎌倉考古学研究所	〃
成増百向遺跡発掘調査報告書	成増百向遺跡調査会	〃
十二遺跡	御代田町教育委員会	5.12.1
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第165・183・186・187・189・192集	㈱岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	5.12.2
紀要XⅢ	同上	〃
府中市埋蔵文化財研究紀要第1号	府中市教育委員会	5.12.3
府中市埋蔵文化財調査報告第1・2・4～7・9～11・13集	同上	〃
武蔵国府 府中市遺跡調査会年報昭和56(1981)年度	同上	〃
武蔵国府の調査Ⅶ～XⅣ・XⅥ・XⅦ	同上	〃
国立歴史民俗博物館研究報告第52・53集	国立歴史民俗博物館	5.12.6
心に響くふるさとの唄	市原市教育委員会	〃
日本歴史館	㈱小学館	5.12.7
埋蔵文化財保護の手引き改訂版	千葉県教育庁生涯学習部文化課	〃
松山市文化財調査報告書第36集	㈱松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	5.12.8
松山市埋蔵文化財調査年報Ⅴ 平成4年度	同上	〃
城山遺跡Ⅴ	㈱浜松市文化協会	〃
のじごく文化財だより第20号	㈱のじごく文化財保護研究財団	5.12.10
松山市文化財調査報告書第34集	㈱松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	〃
千葉県文化財センター調査報告第222～236集	㈱千葉県文化財センター	〃
千葉県文化財センター年報No.18 平成4年度	同上	〃
㈱長生郡市文化財センター調査報告第16～20集	㈱長生郡市文化財センター	〃
長生郡市文化財センター年報No.7 平成3年度	同上	〃
長南城跡確認調査報告書	同上	〃
弥生文化博物館研究報告第2集	大阪府立弥生文化博物館	〃
埋蔵文化財発掘調査における労働安全衛生要領 平成5年度	東京都教育庁生涯学習部文化課	〃
奈良国立文化財研究所史料第39冊	奈良国立文化財研究所	〃
愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第42・44集	㈱愛知県埋蔵文化財センター	5.12.13
㈱大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第75輯	㈱大阪府埋蔵文化財協会	〃
第46回企画展 はにわ	群馬県立歴史博物館	〃
国立歴史民俗博物館研究報告第54集	国立歴史民俗博物館	〃
京都府遺跡調査概報第55冊	㈱京都府埋蔵文化財調査研究センター	5.12.20
月若遺跡第10地点・第13地点	六甲山麓遺跡調査会	〃
広島県立歴史博物館研究紀要創刊号	広島県立歴史博物館	5.12.22
広島県立歴史博物館展示図録第8・9冊	同上	〃
松本市文化財調査報告No.104～109	松本市教育委員会	〃
大久保山Ⅱ	早稲田大学本庄校地文化財調査室	〃
のじごく文化財だより第21号	㈱のじごく文化財保護研究財団	6.1.7
三重県埋蔵文化財調査報告99-2	三重県埋蔵文化財センター	6.1.11
第13回三重県埋蔵文化財展 伊勢志摩をめぐる考古学	同上	〃
天白遺跡	同上	〃

書名	寄贈者	受入日
平成4年度大阪市埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	大阪市教育委員会	6.1.11
中国横断自動車道広島浜田線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書(本文編第1分冊・本文編第2分冊・図版編)	島根県教育庁文化課	"
日ノ谷遺跡	大多喜町教育委員会	6.1.14
(財)瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第6・7集	(財)瀬戸市埋蔵文化財センター	6.1.19
企画展「甦る金鈴塚」記念講演会記録 金鈴塚古墳が語るもの	金鈴塚遺物保存館	"
甦る金鈴塚 金鈴塚古墳出土品図録	同上	"
空港跡地遺跡発掘調査概報平成4年度	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	6.1.25
縄文の祈りと造形	埼玉県立埋蔵文化財センター	"
秋田市諏訪ノ沢遺跡	秋田市教育委員会	"
一般国道9号安来道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 西地区 I	島根県教育委員会	"
石見空港建設予定地内遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書	同上	"
遺跡探査No.8 1993.12	奈良国立文化財研究所	"
博古研究第6号	博古研究会	"
ひろしまの遺跡合冊(第1~50号)	(財)広島県埋蔵文化財調査センター	6.2.2
研究輯録Ⅲ	同上	"
広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第109・115集	同上	"
(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団年報	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	"
高山歴史学研究所文化財調査報告書第3冊	高山歴史学研究所	"
平成5年度千葉県遺跡調査研究発表会要旨	千葉県文化財法人連絡協議会	"
東京都八王子市檜原町檜原遺跡(檜原東部土地区画整理区域内)発掘調査報告書	八王子市教育委員会	"
鳩山町埋蔵文化財調査報告第15集	鳩山町教育委員会	"
美濃市文化財調査報告第7号	美濃市教育委員会	6.2.3
千葉県の歴史第45号	(財)千葉県史料研究財団	6.2.4
図録成田山ゆかりの人々(VI)	成田山霊光館	"
埋蔵文化財ニュース77	奈良国立文化財研究所	6.2.8
小枝2号墳	吉井町教育委員会	6.2.17
備前周匝茶臼山城址発掘調査報告書	同上	"
大江遺跡群Ⅱ 大江遺跡群第3次調査区発掘調査報告書	熊本市教育委員会	"
のじぎく文化財だより第22・23号	(財)のじぎく文化財保護研究財団	6.2.24
湘南藤沢キャンパス内遺跡第3巻縄文時代	(財)千葉県文化財センター	"
山武考古学研究所年報No.11	山武考古学研究所	"
京都府埋蔵文化財情報第50号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	6.2.28
松山市埋蔵文化財調査報告書第37集	(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	"
大阪府下埋蔵文化財研究会(第29回)資料	(財)大阪文化財センター	"
岡田遺跡範囲確認調査報告書	玉川文化財研究所	"
渡内遺跡発掘調査報告書	同上	"
六間台遺跡発掘調査報告書 I	同上	"
大師山6号墳・宮田1号墳発掘調査概要報告書	西紀、丹南町教育委員会	"
土橋遺跡Ⅵ 平成4年度緊急発掘調査報告書	袋井市教育委員会	"
向日市埋蔵文化財調査報告書第35集	(財)向日市埋蔵文化財センター	6.3.2
高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第2冊	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	"
四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第12・13冊	同上	"
(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書15	(財)長野県埋蔵文化財センター	"
栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター年報第3号	(財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター	"
企画展これは何でしょう なつかしの生活用具	世田谷区立郷土資料館	"
袋井の前方後円墳	袋井市教育委員会	"
特別展「武蔵国造の乱」図録	大田区立郷土博物館	"

書名	寄贈者	受入日
栃木県埋蔵文化財調査報告書第130～133・135・136集	栃木県教育委員会	6.3.2
第2回研究成果検討会議論文集	奈良国立文化財研究所	〃
史叢第51号	日本大学史学会	〃
柏市埋蔵文化財調査報告書24	柏市教育委員会	〃
高津尾遺跡17区発掘調査報告書	法政大学文学部考古学研究室	〃
ムゼイオンNo.39	立教大学学芸員課程研究室	〃
各務原市資料調査報告書第17号	各務原市歴史民俗資料館	6.3.9
国立歴史民俗博物館研究年報1(1991・1992年度)	国立歴史民俗博物館	〃
柏市埋蔵文化財調査報告書25	柏市教育委員会	〃
福島市埋蔵文化財報告書第38・47～57集	福島市教育委員会・(財)福島市振興公社	〃
文化財調査報告書第21・22集	前橋市教育委員会	6.3.11
神ヶⅠ・神ヶⅡ遺跡	(財)浜松市文化協会	6.3.14
黒笹116・117号窯発掘調査報告書	三好町教育委員会	〃
神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告27・28	神奈川県立埋蔵文化財センター	〃
神奈川県立埋蔵文化財センター年報12 平成4年度	同上	〃
千葉県立房総風土記の丘年報16 平成4年度	千葉県立房総風土記の丘	〃
長野市の埋蔵文化財第49・51・52・54～57集	長野市教育委員会	〃
長野市埋蔵文化財センター所報No.3	同上	〃
宮城県古川市文化財調査報告書第7～12集	古川市教育委員会	6.3.16
東北・北海道の土偶 1994.2 (シンポジウム発表要旨)	国立歴史民俗博物館	〃
秦野市・東海大学提携10周年記念特別展 古代からのメッセージ	秦野市立桜土手古墳展示館	〃
広島県の埋蔵文化財	広島県教育委員会	6.3.18
冠遺跡群Ⅱ 1992年度の調査	同上	〃
三重県埋蔵文化財センター研究紀要第1・2号	三重県埋蔵文化財センター	〃
三重県埋蔵文化財調査報告99-3	同上	〃
京都府遺跡調査報告書第19冊	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	6.3.24
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団年報12	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	〃
平成5年春季特別展「埋文センター5年のあゆみ」	(財)桜井市文化財協会	〃
宮ノ前遺跡	(財)山梨文化財研究所	〃
角江遺跡 平成4年度概報	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	〃
祝田遺跡 平成4年度概報	同上	〃
焼場遺跡A地点 平成4年度概報	同上	〃
清水遺跡 平成4年度概報	同上	〃
静岡の原像をさぐる! 平成5年度埋蔵文化財発掘調査報告会	同上	〃
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第37・42・44集	同上	〃
静岡県埋蔵文化財調査研究所年報Ⅸ 平成4年度事業概要	同上	〃
川合遺跡八反田地区 平成3・4年度概報	同上	〃
箕輪遺跡 平成4年度概報	同上	〃
国立歴史民俗博物館研究報告第55集	国立歴史民俗博物館	〃
三重県埋蔵文化財調査報告87-16	三重県埋蔵文化財センター	〃
開館20周年記念「20年のあゆみ」	千葉県立安房博物館	〃
のじぎく文化財だより第24号	(財)のじぎく文化財保護研究財団	6.3.31
鹿島中世回廊	(財)鹿島町文化スポーツ振興事業団	〃
東国の土偶	茨城県立歴史館	〃
三島市文化財年報第5号	三島市教育委員会	〃
三島市埋蔵文化財発掘調査報告Ⅱ	同上	〃
平成5年度市原市内遺跡発掘調査報告	市原市教育委員会	〃

書名	寄贈者	受入日
芝山町内遺跡発掘調査報告書	芝山町教育委員会	6.3.31
考古学者・杉原荘介	大村 直	"
東金市内遺跡発掘調査報告書	東金市教育委員会	"
苫小牧市ニナルカ遺跡発掘調査概要報告書	苫小牧市埋蔵文化財調査センター	"
苫小牧市柏原5遺跡発掘調査（第3次）概要報告書	同 上	"
苫小牧市美沢東遺跡群発掘調査概要報告書	同 上	"
市内遺跡発掘調査報告書	柏市教育委員会	"
鳩山町埋蔵文化財調査報告第16集	鳩山町教育委員会	"
特別展「至宝日本の古人形の美」	睦沢町立歴史民俗資料館	"
遺跡調査室年報V・VI	立正大学文学部考古学研究室	"

市原市文化財センター年報

(平成5年度)

平成9年1月20日 発行

発行 財団法人 市原市文化財センター
〒290 千葉県市原市能満1489番地
TEL 0436(41)9000

印刷 三陽工業株式会社
〒290 千葉県市原市五井5510の1
TEL 0436(22)4348